

伏見宮本『広義門院御産御記』後伏見天皇宸記 翻刻（上）

皇室制度調査室

平成二十二年度末に刊行した『皇室制度史料 儀制 誕生四』をもって、儀制編誕生は完結を迎えた。この間、皇室制度調査室では、書陵部内は勿論のことであるが、各地の史料所蔵機関にて関連史料の調査や紙焼き写真の蒐集などを行ってきた。

しかし、皇室制度史料の性格上、史料調査の成果などを全て盛り込むことは不可能であり、また、解題などを付すことが難しいため、収録できた史料に限定しても、その史料的な特徴を読者に十分に伝えきれない場合もあるうかと思われる。

そこで、儀制編誕生の完結を機として、皇室制度史料編修の過程で得た知見をできるだけ多く公にすることを目的とし、当紀要において史料紹介を行ってきたい。

その初回として本号では、延慶四年（一一三二）に後伏見上皇の皇女珣子内親王が誕生した前後について非常に詳細な記述を有する伏見宮本『広義門院御産御記』後伏見天皇宸記の翻刻を行う。同書は、同じく珣子内親王の誕生について記述した伏見宮本『広義門院御産愚記』公衡、乾元二年（一一三〇）に龜山上皇の皇子恒明親王が誕生した前後について記述した伏見宮本『昭訓門

院御産愚記』公衡や、建久六年（一一九五）に後鳥羽天皇の皇女昇子内親王が誕生した前後に関する記述のある『三長記』、治承二年（一一七八）に高倉天皇の皇子言仁親王（後の安徳天皇）が誕生した前後に関する記述のある『山槐記』などと並び、皇子女の誕生儀礼について最も詳しい史料であるにもかかわらず、これまでその全体が翻刻されたことはなかった。したがって、全文を翻刻してその通読が可能となるようにすることで、儀式毎に分載した儀制編誕生の記述をよりよく理解していただけるようになるのではないかと思われる。

（凡例）

一、本稿は、当部所蔵の伏見宮本『広義門院御産御記』後伏見天皇宸記（全十六巻、伏一六一九）の翻刻を行うものである。ただし本号では、全十六巻のうち第四巻まで、つまり珣子内親王誕生前日の記事までの翻刻を行い、誕生当日以降の記事を有する第五巻・第六巻の翻刻、および解題は、当紀要の次号に掲載する予定である。

一、翻刻にあたっては、おおむね底本の体裁に拠るが、原則として平出・闕

字等は連書し、古体・異体・略体文字は正体に改める。

一、翻刻にあたり、新たに読点（、）・並列点（・）を施し、翻刻者の加えた註記のうち、底本の文字に置き換えるべきものは「」、その他の校訂註および説明註は（ ）をもって括る。

一、底本に文字の欠損のある場合、その字数を計り、□□または□□などの符号をもつてうめる。

一、その他、右述の点も含め、基本的に皇室制度史料に倣う。

一、本号の担当は、新井重行・石田実洋・高田義人・福島真理子である。

（翻刻）

● 第一卷

〔外題〕 延慶三年八月十二日
〔廣義門院御産記〕 一名後伏見院宸記 一

〔舊包紙ウハ書〕
〔廣義門院〕

御産記

延慶三年 自八月廿四日 墨付廿二枚
至十二月六日 但九月一日二日之間闕

延慶三年八月廿四日、朝小雨、午剋許密々參賀茂、〔伏見〕上皇自去廿日有御〔參籠也カ〕□□□□只今

御宮廻之間也、仍暫候御所、奉待還御、申□□御宮廻了還御々所、余入見參、

前左府同候御前、〔他事〕略之、〔藤原寧子〕廣義門院御産間事、今日大概申定、内々與前左府有御

談義也、

一、奉行人事

以大治顯隆例可爲頼藤卿歟之由、有其沙汰、五位院司可爲資名、

一、御産所事

寛元以後任度々例、今出川尤可然之處、近年破壊、大略無跡形分也、今度

更以不可叶、此上北山・常磐井歟之間可然歟、但北山城外、先々有沙汰乎、

此上猶可爲常磐井之由、前左府申之、仍大略令治定常磐井訖、抑此常磐井
昭訓門院御所也、而當時女院大略御坐今出川西第、此院御留守也、仍自去
年前左府申預所居住也、以女院御所無左右被點御産所之條如何、余心中存
之、但當時曾無可然之御所上、定又被申事由於女院歟之上、勿論々々、〔此
御産所事、後日被尋在彦、
吉方殊可宜之由申之云々、〕

一、御驗者事

可爲道昭僧正云々、

一、醫師

行長勿論、寛元以後大宮院御産一向祖父經長申沙汰、其上當時行長女院管
領醫師也、旁勿論也、

一、陰陽師

可爲在彦朝臣、當時女院管領也、

一、御著帶可被用何个月哉事

來十月令相當六個月、於初度者六個月吉例多、仍可爲十月之由、令治定畢、
此等條々、大概今日有其沙汰、奉行事、先内々可問答頼藤卿之由、上皇被仰
前左府、乾元昭訓門院御産申沙汰、且有故實歟、旁可宜之由、上皇有仰也、

廿九日、晴、前權中納言頼藤卿參申御産奉行事、一昨日〔廿七日〕自院御方被仰

下、今日爲吉日之間、御著帶事條々申定院御方、仍故參申、五位院司資名同

被仰奉行事云々、頼藤卿申云、御著帶日次相尋在彦之處、十月廿三日丙寅

上日、最上吉之由申之、行長、同八十月上中旬之間、早速可宜之由、令申之

間、重相尋早速日次、廿三日以前吉日無之由、在彦令申之間、重問答行長之

處、令申云、早速條、同ハ可宜之間、雖申入其由、廿三日又更不可有違儀、

早可被用件日之由申之、仍申入院御方了、在彥十月例并廿三日・寅日・午日等例注進之、十月例、後嵯峨院、寅日例、村上・後朱雀・後三條、午日例、堀河院、廿三日例、後深草院・上皇、此等例、皆以佳例也、凡今度御產、一不違大治二年例、其時每事白河院御沙汰也、仍今度每事可爲上皇御沙汰也、九月一日、幸常磐井、(藤原寧子)廣義門院同之、御產間事問答前左大臣、

一、御著帶御所事

此事、以上皇仰(伏見)□仰合其子細、持明院殿可宜歟、但依御所□(破壞)年內可有修理沙汰、仍年內余候持明院□(殿)□(可叶)可居住今小路也、隨女院も可爲同前、就之□(御之)著帶於今小路可有之條、可爲何樣哉、又猶持明院殿有此儀條、可宜歟、宜仰合之由、蒙仰者如何、前左府申云、今度任大治例、諸事上皇御沙汰也、就之御著帶猶於持明院殿被行之條、尤可相叶先規、但來月廿三日以前可有御所修理者、今小路殿不可及子細、所詮可隨修理時分也、大治御產所三條烏丸御所、三院(河)白川、鳥羽、皆御同宿、但新院□(缺了)

一、問吉時人

代々執事別當問之、今度右大將拜賀以前、出仕定不可叶歟、然者可爲實衡卿乎、

條々委細談儀、抑前左府申云、行長當時前官(前右京大夫)也、管領醫師前官不可然、施藥院使可還任歟、且寬元・建長御產經長管領之時、爲施藥院使、且可爲佳例、當職施藥院使和氣時世關東仁也、仍此趣被仰關東云々、數剋言談、及暗歸亭、

二日、陰晴不定、自持明院殿以御書被仰下云、御著帶御所事、昨日之趣仰合前左府哉、然者何樣令治定哉者、御返事、昨日次第委細言上之、又委注差圖申入畢、

十一日、賴藤卿申、自御著帶日每日御祓結番陰陽師、先例八人也、則注一紙進之、(伏見)上皇御覽、此輩可然之由有仰、其次申云、今度御產可爲大治・建長等例之由被仰、就之御祈、大治內外法御祈等不可勝計、於建長者御產早速之間、御祈等大略御產以後被行之上、建長第三度御產之間、御祈等少々有省略事、於御祈式目、猶就初度可被追寬元例歟者、仰尤可然、寬元御著帶日被始行御祈、金剛童子法・愛染王法・藥師(護摩)□(護摩)・泰山府君御祭・訶梨帝十五童子供・如意輪供・三星供・愛染王供等也、今度定此式目無相違歟、但此中省略分、若可有之哉、三壇之外於泰山府君・三星供者、尤可被行之由、前左府申之、可爲何樣哉者、寬元如式目、今度皆可被行之由有仰、今度可被行之內外法等可令注進之由、可仰前左府、如阿闍梨兼可有御問答云々、

廿三日、雨降、賴藤卿參申、御產奉行人資名輕服之間、不能申沙汰、仍被仰仲定・成輔(惟息)之處、此輩兩人母逝去之間、可有憚、仍被仰成隆、(賴藤卿二男)未練之者無左右難申領狀、且又父子不交他人之條、頗似傍若無人、大治顯隆・顯賴例公私雖爲佳例、不肖身難追彼例、仍度々申入子細了、但眞實奉行人及闕如者、何不申領狀之由存之、仍申入其由之由語之、

十月十日、賴藤卿申、自御著帶日三壇法、金剛童子道昭僧正、愛染王法(建長)王無之、聖觀音也、今度猶任寬元、定助僧正、藥師護摩俊禪法印、此外如意輪供例、可爲愛染王之由、有其沙汰也、公什僧正、愛染王供正遍法印、訶梨帝十五童子俊禪法印、三星供築筭法印、泰山府君祭・呪咀等御祭就管領在彥可行之、大概治定了、而公什僧正申、如意輪供可爲法歟、然者可勲仕、於供者行條難治云々、今度御祈式目、一如寬元、而三壇之外、如意輪可爲法者、修法已可爲四壇、此條違先例上、四壇尤可有憚、猶可爲供、早可勲仕之由、重被仰下畢之由申之、十五日、今夜前左大臣以賴藤卿書進御著帶次第、(折高檀紙二枚、書之、自筆也)止置御所了、

廿日、賴藤卿進來廿三日所役散狀、并每日御被陪膳・役送、又陰陽師散狀、其人數廿三日記可注之、

廿一日、陰、不雨下、今日廣義門院御幸持明院殿、長隆兼中沙汰也、是來廿三日可有御

著帶故也、凡自兼日御所之由也、仍當日御幸不叶其理之由、前左府計申之間、

自今日渡御也、後伏見余同所參也、未一點乘車、實衡卿寄車、女院依內々儀只二

衣・白袴也、女房二人有車後、下部等著狩衣、待景長以下五六輩有共、如法

依內々儀、不及殿上人扈從、於持明院殿自東面下車、參女院御方、只今評定

之間也、仍覽候女院御方、小時明後日御著帶之所巡見之、今日公卿座以下懸

御簾、御湯殿上與以南一間撤障子・長押等、借爲公卿座也、如此事大略自今

日捨之、作所致沙汰、而不法・左道事等多之、仍可直改、今間可召進番匠之

由、以長隆仰基仲作所奉行了、而他行云々、今日已及晚了、此上可爲明日沙汰

之由仰了、作所不法事、太以奇怪也、此事兼日國房申沙汰也、而委不加檢知

歟、如何、可直改之事等、委仰間長隆了、但件等事、女院御幸以前已致沙汰

了、而御幸以後雖小事令直改之條、若可有其憚哉否事、余召在彦問答、申曰、

最小事也、不可及其憚之由令申也、仍明日可致沙汰也、又中門內數砂猶不足

也、諸寺沙汰猶大樣也、仍可致別沙汰之由、仰俊光了、只今祇候之間、則仰也、領狀、摠

每事任奉行人許條、猶大樣無沙汰事等多之、仍頗雖似委細沙汰、余至此事等

口入、頗可招傍難歟、但每事存美麗之故也、

廿二日、早旦賴藤卿父子參、作所不法事等、今日可直改之由、自昨日仰了、

而番匠未進、數度責遣之由申之、及西剋基仲召具匠參、賴藤卿檢知令直改、

至夜陰直了、凡明日御裝束、大概自今日奉仕之、其儀委細明日可記也、

延慶三年十月廿三日、丙寅、天氣似春華、今日廣義門院著帶日也、後伏見懷妊以後當六個月、於

個月吉、判官代右少辨長隆奉行此事、父母現在、無憚、大宰帥賴藤卿直衣、下結、參同口入、

父子不交他人申沙汰之條、大治例兼呈吉瑞者也、主典代資世・廳官中原盛尙

并自餘廳官五六輩皆束帶、於中門邊每事致沙汰、其中盛尙一人布衣、上結、頗

打梨、今日奉行廳官也、尤可爲束帶歟、但可爲布衣者、尤可下結也、其體太

左道也、已一點余著裝束、後伏見鳥帽子直衣、青色衣、紅單、此間余召賴藤卿仰云、御帶

使已向前左大臣第哉、常磐井第、今度御帶前左大臣調進之、建長、常磐井入道、相國於女院御嚴親調進之、仍今度依彼例前左府調進也、賴藤申云、

今朝早旦向了、於今者定令持參歟云々、小時使持參御帶、右小辨長隆申事由、

於東面妻戶、余仰曰、早可令持參之由可仰者、長隆歸出仰可持參之由、成隆兼

可爲資名之由、雖沙汰、俄以輕服之間如此、於一對妻取御衣篋、御帶須於中門取之持參也、而御前往反九之間、

了、此事且仰、持參自妻戶間、今度御吉方甲方也、仍妻戶以南南間自御座間當甲方、自此間取

談前左府也、入御帶之條、可宜歟之由、前左大臣所存也、而在彦猶妻戶間可

宜之由申之、仍非此事可被任陰陽師所存之由、前左府令申之間、用妻戶間也、進入之、所役女房、中藤師衡入道女、號大、二親現存

表著、蒲陶唐衣、白腰裳、豫儲此處也、取之持參常御所、開蓋覽之、其體、

御帶、白生絹、長一丈二尺、二倍爾帖テ又三爾帖之、厚樣ノ橫長ニ御帶ヲ折

返天、以九重白厚樣、其體、只普通薄樣也、中倍七枚加重、面裏共白、有薄淡、縱ニマ裹之、以同厚樣弘一寸許

結其中、諸發、以上納御衣箱、黑地、蒔繪鶴、白、食松、黃、白、臈置口、白浮織物、甲、折立、折立、折立、赤色浮織物文小、裹

打裏、裏文、同色伏紐、居臺、蒔繪、同衣箱、有、

サカリ、裏長九尺、見畢如元掩蓋、裹之後返給、恣可持向御加持所、今度御帶加持道昭僧正、寬元、之由

仰之、此間前左大臣冠直衣、參、予對面、此間權中納言實衡卿束帶、參著公卿座、

端座、小時上皇渡御、伏見御烏帽子直衣、御對面、良久午四點使歸參、今度吉時午・申、

共以爲佳例之由、在彦兼申之、御帶使若午中不歸參者、可待申剋之處、午剋

中歸參之間、用此剋、大治吉時午剋、寬元・建長申剋云々、皆以佳例也、今日早速之條、已叶大治例、先斯可裝御裝束、然

而爲早速、自昨日奉仕之、其儀、東面廂三間假爲畫御座、南間迫西敷大文

帖二枚、南北行、其上加東京茵、南西北三方立廻五尺屏風二枚、其前立三尺几帳

一本詩繪手、持繪文松、為女院御坐、東面三個間加妻、并公卿座南簾等立几帳、以

北二個間假為公卿座、東面御簾卷之、次使自初所進御帶、女房取之置御前差

席上、今度御衣箱ノ蓋ヲアヲノケテ掩之、又御帶今度不裹、此間女院白御衣八、同御單濃打

厚樣在御帶ノ下也、御帶中ノ中央ニ入加御加持封也、蘇芳御表著、蒲

陶染御小褂、霧文出御々座、次成隆持參仙沼子以地薄樣裹之、御帶封同入加之、此封、寬

先々於封内々進之云々、今度裏加、定有所存歟、地薄樣上ニ仙沼子ト書之、其上ヲ以高檀紙橫サマ

裹テ上下折之也、又其上ニ仙沼子ト書之居柳宮也、前右京大夫丹波行長朝臣兼持參、候便宜

所云、進簾中、御帶ヲ取、女房取之置御衣篋傍、次權中納言藤原朝臣實衡招成隆問

吉時・吉方等、今度執事別當右大將公顯卿、依拜賀以前不能出仕、仍實衡卿參問之、大治執

相叶彼事能俊卿、于時治、御著帶日不出仕、仍左兵衛督實能卿、連枝、問吉時、今日自然

也、成隆歸出示實衡卿、々々々々以成隆啓御所、就妻戶間簾下申之、其詞、時午、御吉方申、女房可傳啓

但聞之間、別不及申也、次余可結御帶也、先斯三品今朝内々參也、裝束白唐織物三

束、參屏風外、前左大臣開御衣箱蓋取出御帶、相具仙沼子給三品、々々仙沼

子ノ表ノ裏紙ヲ撒テ、乍裹地薄樣納御帶中、御帶ヲ二倍兩取テ、中央程二

取之進余之後、前左府・三品并自餘女房等皆退障子外、次余結御帶、其儀、

先御帶ヲ獻女院、々々取之自右御袖引入御懷中、自左御袖口引出之、同程

三被引整、余即取兩方御帶餘、更入御袖口結之、諸鑓、仙沼子當御背中央、次有御

出之、而寬元如此、其以後可爲如此之由、常磐井入道相國示之云々、此旨前左府語之也、

禊事、前左大臣先取御衣箱給女房、々々取之置常御所、臺也、次女房持參几帳

一本、可立御座前也、但依便宜前左府立之、自元一本、有之、二先廳官一人束帶、

持八足立中門内、召使欲敷圓座、爰前左大臣追止廳官、仰可持參之由、仍持

參八足之廳官數圓座、八足敷西方也、須廳官二人可持參八足・圓座等、而一人兩役勤

仕、不可然也、次陪膳左中辨雅任朝臣兼陪膳可爲頭官内卿國房之處、取御贖物人形、

傳之、自北俄以輕服之間、爲雅任也、陪膳女房前權大納言實明卿息女、九歲、裝束同取入御帶之女房、仍不注、

直取之置御前、須陪膳役送女房可候兩人也、而此間已狹、余扶持之、役送右小辨長隆

取今一前散米、持參、雅任朝臣傳供之、女房取之置人形右方、次大膳權大夫

賀茂在彥朝臣束帶、入中門著庭中圓座、令解繩給、雅任朝臣降東面沓脫當妻戶、

取大麻、持參進簾中、一撫之後被置祓物上、次撤御贖物、撤之也、次廳官撤八

足・圓座等、御禊了右兵衛佐行高於東面妻戶間申出金剛童子御撫物、上臈女

房五衣、生袴、永福門院御方、出御撫物、御單一領、入弘蓋、行高取之給廳官盛種、

女房兼參廣義門院之仁也、御單一領、入弘蓋、裹打裹也、

々々持向道昭僧正房、次尾張守經躬申出愛染王御撫物、如先、廳官重宗相副向

定助僧正房、次藥師護摩御撫物以爲申出之、廳官久秀持向俊禪法印房、此外

泰山府君・呪咀等御祭、三星供等御撫物、内々自御湯殿上出之、泰山府君・

呪咀等御撫物泰山府君料御鏡一、以紙二枚裹之、以呪咀御祭料御衣脫一、御單一領、人

出之、三星供御撫物御鏡一、入弘蓋、内々申出之云々、余不見其儀、後日尋聞

記之、此間御驗者道昭僧正參、以長隆召僧正、僧正如常、參入東面妻戶中、此

處可有護身也、先前左府對面、次護身、北障子小開之、立織物几帳、一時了上皇御

對面、余又於此處同對面、今日儀無爲無事之由賀申之、小時上皇入御、余暫

對面、次退出、上皇於中門蜜々有御覽、余同見之、前左大臣祇候、僧正行粧

如法刷之、次於東面上皇又御對面、前左府・余候此處、聊供酒饌、前左府可

祝著之由、上皇頻有仰、令勸酒御、左府祝著、度々傾盃、及晚侍景朝申出御

櫛・御撫物、御櫛一、以檀紙裹之、入弘蓋、自臺所欲令出之處、景朝申云、此御撫物先々於御

湯殿上直被下、先例也云々、仍自御湯殿上女房直出之、此事、自臺所可被出

者、定以如得選被出歟、御撫物得撰不可懸手、事理尤可直給也、即持向在彥

朝臣許、御被了歸參進入、自今日每日如此、件景朝、今日雖爲下臈、父母現存、依無

上臈今日八下臈、帶櫛、景長相觸致沙汰、就管領每日遣在彥許、及晚前左大臣退出、今日儀、天晴風靜、諸事

相應、幸甚々々、以是知未來吉瑞者也、

自今日被始行内外法御祈等

金剛童子法 道昭僧正修之、一句之後可爲供、當時於本坊可行之、至御產當月於御所可爲修法、雜具入道相國沙汰、

愛染王法 定助僧正、子細同前、雜具仙河御沙汰、

藥師護摩法 俊禪法印、至御產期可爲法、雜具前左大臣沙汰、

已上三壇流例也、

如意輪供 公什僧正、雜具同前、

愛染王供 正遍法印、雜具同、

訶梨帝十五童子供 俊禪法印、雜具同、

泰山府君祭 在彥行之、自今月每月可被行、祭料俊光卿沙汰、

呪咀御祭 同在彥行之、且又每月被行之、抑呪咀祭日比每月被行之、仍被通用也、且建長如此、但日比每月廿日被行之、自來月擇日次可被行之、泰山府君同每月被行之、然而件御祭者不被通用、各別可被行之、祭料同前、

三星供 祭法印行之、每月被行之、每晦日取替御鏡可出也、經親卿沙汰、

已上賴藤卿伺寬元例所申沙汰也、此中呪咀御祭寬元無之、建長御著

帶日被行之、仍今度被行之也、建長第三度御產上、御產楚忽之間、

御祈等少々被省略云々、今度依爲初度、御祈式目偏用寬元例也、

抑自今日每日御祓陪膳・役送、陰陽師、廳官并御櫛・御撫物侍等結番、其人

數賴藤卿注進之、

定

每日御祓陪膳・役送

一番子 俊兼朝臣 光經

二番丑 有時朝臣 長隆

三番寅 茂賢々々 範高

四番卯 資榮々々 仲定

五番辰 俊言々々 親賢

六番巳 兼高々々 光業

七番午 國資々々 資教

八番未 資清々々 行高

九番申 維成々々 成輔

十番酉 隆頼々々 知有

十一番戌 實次々々 爲宗

十二番亥 雅任々々 經躬

右自今日至于御產當日、守次第可勤仕之狀、如件、

延慶三年十月廿三日

同陰陽師結番

今月廿四日 在益朝臣

廿五日 在冬々々

廿六日 在藤々々

廿七日 在彥朝臣

廿八日 在文々々

廿九日 淳宣々々

卅日 國弘々々

十一月一日 在濟

同廳官結番

一番 廿一日、十二日、 職秀 職幸

二番 廿二日、十二日、 久秀 職政

- 三番 三日、十三日、重成 重綱
- 四番 廿三日、十四日、光宗 光弘
- 五番 廿四日、十五日、盛種 光久
- 六番 廿五日、十六日、久國 久有
- 七番 廿六日、十七日、盛員 盛泰
- 八番 廿七日、十八日、職氏 氏兼
- 九番 廿八日、十九日、宣直 有貞
- 十番 廿九日、廿日、重宗 有尙

延慶三年十月 日

- 每日御櫛・御撫物使結番輩
- 一番 大江景朝 二番 田使兼顯
 - 三番 中原行秀 四番 源重季
 - 五番 源良兼 六番 中原時朝
 - 七番 中原盛經 八番 藤原助業
 - 九番 源康清 十番 源康任
 - 十一番 藤原宗種 十二番 源致範
 - 十三番 源良康 十四番 中原邦景
 - 十五番 中原行季 十六番 源康親
 - 十七番 藤原信賢 十八番 源康嗣
 - 十九番 藤原親國 廿番 藤原知清
 - 廿一番 源聞 廿二番 源重隆
- 已上交名等頼藤卿書進也、
- 廿四日、未剋許有御祓事、陪膳資榮朝臣、役送光業、其所如昨日、自今日ハ

(廣義門院藤原密子)
女院不及物具、只二御衣・白袴也、陪膳女房ハ五衣・生袴也、不重物具、御櫛・御撫物如昨日、

廿八日、今日依吉日被練御帶、是内々沙汰也、吉時午剋、在彥擇申、於大貳局里第至沙汰也、内々女房取御帶遣之、被遣御帶之時、日比所納仙沼子并御帶封等取出之也、申剋許練御帶返進之、其後女院令著之給、准后奉仕之、今度奉仕、仁安無定事、然而依永福門院御計准后奉仕之、御帶長之間、自中央二纏三纏テ結之、且是ソヨカラム料也、帖様如元、抑今日代厄御祭、女房等不知案内、内々出御撫物、(人形折櫃一、御單一、領、入弘蓋、裏打裏)日次今明共吉日之由、在彥申之、而今朝雖雨下、及晚屬晴、仍今日所行也、翌日使以爲雖參、昨日已令出之上ハ、無其益、(後伏見)余後聞此事、無案内女房所爲、尤無正體、不可爲後例也、

廿九日、今日御産御祈事相觸諸社・諸寺云々、其所々頼藤卿注進之、其員數、

- 諸社
- 公卿院司御教書、 同、
- 伊勢 別又仰親忠朝臣、 八幡 仰尙清法印、
- 護國寺 同、
- 院司奉書、 鴨社 仰禰宜祐顯、 同、
- 賀茂 別又仰權禰宜近平、 五位院司奉書、 平野 仰預兼彥朝臣、
- 同、 松尾 仰神主相憲、 院司奉書、 春日 仰權神主時實、
- 廳御教書、 同、
- 稻荷 仰神主光世、 公卿院司、 大原野 仰神主季房、
- 同、 同、
- 石上 同、 同、
- 廣瀨 同、 龍田 同、
- 五位院司、 日吉 院司奉書、 公卿院司、 中座主宮、
- 住吉 仰神主國冬了、 別又仰權禰宜成久、

五位院司、梅宮 仰長者以隆朝臣、
公卿院司、廣田 仰伯二位、
公卿院司、院司奉書、前執行、
祇園 仰榮晴法印、
公卿院司、丹生 仰神主經弘、
北野 奉書、別又仰盛尊法眼、
公卿院司、貴布禰 仰禰宜祐里、
熊野 仰檢校僧正、
公卿院司、新熊野 同、
五位院司、新日吉 仰執行行尋法印、
同、西園寺 總社 仰兼夏朝臣、
諸寺
公卿院司、東大寺 仰寺務僧正、
鎮守 八幡宮
興福寺 仰菩提山僧正并大乘院僧正、
寺務僧正、南圓堂
東西金堂
延曆寺 申座主宮、
根本中堂
園城寺 申長吏宮、
又仰淨雅僧正、
新羅社
同、東寺 仰寺務成惠僧正、
同、西大寺 仰信空上人、
同、金峯山寺 仰一乘院僧正、
同、廣隆寺 仰執行尋嚴、
公卿院司、石山寺 仰守惠僧正、
同、吉田 仰預兼夏朝臣、
院司奉書、祇園 仰榮晴法印、
丹生 仰神主經弘、
公卿院司、熊野 仰檢校僧正、
五位院司、新日吉 仰執行行尋法印、

同、長谷寺 仰大乘院僧正、
五位院司、法勝寺 仰別當法印隆遍、
蓮花王院 仰執行快豪法印、

廳、法界寺 仰執行法眼祐寬、
公卿院司、法雲寺 仰淨雅僧正、
五位院司、清水寺 仰別當法印隆遍、
同、行願寺 仰別當僧都法誓、
廳奉書、因幡堂 仰執行覺有、
今夜定助僧正參愛染王法御加持也、自去廿三日始之、參東面妻戸内、即著修法淨衣、紅梅淨衣、番僧六口、同皆著紅香裳袈裟、梅淨衣、東面障子聊開之立几帳、女院御坐云々、余他(後伏見)行之間、不見其儀也、

十一月五日、今日依爲吉日施藥院使丹波行長朝臣進丹參膏、御懷妊以後當七个月進之、先例云々、行長衣冠、上結、持參之、自御湯殿上内々進之、其體、納白土器掩蓋、蓋同白(蓋同白)聊平、蓋上以小字丹參膏ト書之、居同土器、匕一具之、以柳木作之、匕寸法四寸許(匕寸法四寸許)ヘテ、以上納折櫃以紙掩之、紙上下折之、折タル方ヲ入折櫃中也、居折敷、又可被聞食之樣、御合食禁等盡書進之、續高檀紙(續高檀紙)二枚書之、向戌方可被聞食、一日一度(定無)時尅、云々、後々不可及吉方沙汰之由申之、

八日、今日御產御祈沙汰事、重被仰關東、此事於内(此於内)、先度已被仰了、賴藤卿奉書如此、狀案請取、前左府注之、

(藤原寧子)廣義門院御產御祈事、先度内々被仰遣了、何樣可候哉、御修法等自明年正月可被始行候、重可被尋申關東歟之由、院御氣色候也、仍言上如件、賴藤(後伏見)誠恐頓首謹言、

十一月八日大宰權帥賴藤

進上 伊豆守殿

退言上

代々此御祈關東沙汰、目六爲御意得被注進之由、同其沙汰候也、重誠恐頓首謹言、

後深草院御誕生、
寛元々々年

尊星王法 關東沙汰、

如法愛染王法 關東沙汰、

寶治元年

尊星王法 關東、

如法愛染王法 關東、

龜山院御誕生、
建長元年

尊星王法 關東、

如法愛染王法 關東、

同六年

尊星王法 關東、

如法愛染王法 關東、

康元々々年

尊星王法 關東、

如法愛染王法 關東、

正元二年

普賢延命法 關東、

如法愛染王法 關東、

以上六個度、大宮院御産、

東二條院御産、
弘長二年

普賢延命法 關東、

如法愛染王法 關東、

京極院御産、
同年

尊星王法 關東、

如法愛染王法 關東、

廿七日、今月分泰山府君・呪咀等御撫物、今日出之、兼日在彦、擇申日次、御撫物如去月藏人以爲申出、自東面妻戸女房出之、

卅日、晚頭道昭僧正參護身如例、

十二月六日、今日御産御調度行事所始也、藏人右衛門權佐資名奉行也、秉燭程資名束帶、參、先斯以隨身所二個間點定行事所、其儀、今小路隨身所二個間副西

壁敷高麗小文一帖南北行、爲院司座、東蔀間敷紫一帖東西行、爲主典代座、院司座

前置御帳柱一本、南北行、敷葉、薦置其上、行事所北檐引幔、當雨垂、之程也、剋限戍剋、資名覽日時

勘文、自東面妻戸女房女院女房、(廣義門院藤原寧子)取之持參常御所方、(後伏見)余披見、其書樣、

擇申可被始御産御調度日時

今月六日己酉 時戌

延慶三年十二月六日大膳權大夫賀茂朝臣在彦

見了返給之後、資名於便所帶劍・笏、降中門沓脫著行事所、廳官二人、盛胤、光久、各取松明相從、入自幔西著院司座、有揖、次主典代資重衣冠、上結、同著座、次廳官二人進取直御帳柱、本院司座前南北行置之、今東西行置改也、次大工衣冠、老懸、參進、件柱上中下、各三銚削之、資名起座、已上以大治二年例所沙汰也、今夜日時勘文、猶於寢殿東面可覽歟、

●第二卷

〔外題〕廣義門院御産御記 延慶四年正月(上) 二二

〔舊外題〕御産御記第二 自延慶四年正月十五日 至同廿日

延慶四年正月十五日、天陰、午剋以後小雨灑、不違建長佳例歟、今日廣義門(藤原寧子)

院可有渡御々產所日也、常磐井、余自昨日所居住也、永福門院同自昨日御所、兼日在彥擇日次也。御所中鋪設等悉新調、

寢殿南面五箇間并東西妻戶垂御簾、母屋御簾卷之、母屋、庇簾有鈎丸、庇簾當日可卷之。庇御簾并

東西妻戶等出几帳、階間母屋敷纏三帖、二帖上重敷一帖也、南北行、庇畔敷等如例、寢殿

東西二間南障子同覆御簾、令卷對代南面三箇間爲臺盤所、廣義門院、其中敷紫端六

帖、當中間立大盤一脚、副東障子立簡・辛櫃、大盤未方置火櫃、大盤以下、先

院殿、公卿座東面三個間卷御簾、付鈎小文高麗國筵、對座南北敷之、歡喜定院

西面四個間・南面二個間、同公卿座二個間、皆覆御簾、念誦堂北面妻戶・東

面遣戶二三間、皆覆簾、殿上五個間敷弘筵、其上敷紫疊十枚、與・端其末有

橫敷、南北大盤三脚、其中第一切臺盤、立之、西第二間副北壁置赤辛櫃・簡等、同障子

上二箇間敷紫四帖、殿上北面東二個間爲廂也、寢殿北面以二個間爲廣義門院

常御所、但此處臨御產時可爲御所也、當時先以西二間爲御所、西面二個間爲永福門院常御所、同西面御車寄

一間以北爲御湯殿上、其東可爲廣義門院御湯殿上、東渡殿(御之)撤障子、中南面

二個間爲余居所、同西面二間爲御湯殿上、巽角小御所可爲上皇御所也、以上

御方々大概如此、摠所々鋪設皆以美麗也、自餘臨時拵等不能委記、已剋許余

蜜々參持明院殿、是今日女院御幸出御事見沙汰之料也、自西面乘車、車下部等皆前左府

私所召進也、今日下部可差合之故也、於持明院殿自對妻下車、幸女院御方、奉行人未參、早可召

遣之由仰了、次參院御方、御目御勞今日聊宜體御事也、仍今日可有御幸之由

被仰下、歡悅尤深、女院御幸以前、先有每日御祓事、陪膳長隆朝臣、役範高、

陰陽師國弘、未剋許女院出御、此間余乘車歸常磐井、但於中御門東洞院

密々見物之、爲私下部之間、稅生了、眞實隱密儀二て見物、小時御幸、雨降間裝御雨皮、下北面、五位

師景、六位源致範・中原邦景・大江景朝・藤信賢・同知清等、次御車寄權中

納言實衡卿、直衣、下結、次藏人頭左少將公敏朝臣、內藏頭俊言朝臣、左少將實次朝

臣、各乘車扈從、面々刷行粧也、其後自他路入大炊御門面門、自東面下車、

念參永福門院御方、御車可被寄女院、御方西面之故也、此間御幸入御中門之程也、賴藤・俊光・實

躬・兼季・公秀・季衡等卿躋居、小時前左大臣、直衣、下結、參、御調度行事資名相

構可早參之由、令仰之由申之、不幾程上皇有御幸、被寄御車於西面、具親

卿・茂賢・雅行・兼高・忠朝・親賢等供奉、此間余參西面方、上皇剋限可爲

何樣哉之由、有御尋、余申曰、吉時酉・戌之由、陰陽師內々申之、已致剋限

之間、每事催促之由申之、小時資名相具御調度參、先於東面余可覽之、蓋斯

大治例也、資名人大炊御門面門參西面、此間余出東面妻戶、前左府內々候簾

中、此間御調度東中築子(地)下南北行昇居之、先資名持參目六、大治朝隆卿記、付藏人顯遠奉事由云々、

今日藏人未參、其上資名直持參目六、有何事哉之由、兼內々仰之也、自妻戶間進入置柳筥、余取之披見、其書樣、

新院廳

奉送廣義門院御產御調度事

合

御帳一基 在金銅金物、

柱十二本 在通釘十二雙、 桁八支

土居四支 組入九枚 張小葵文綾、

同帷八帖 在帽額、面小葵文綾、裏白張絹、

五帽四帖

四帽四帖

御几帳十六本 在金銅金物・筒貫、

四尺十二本

三尺四本

同帷十六帖 面小葵文綾、裏白張絹、紐同面、

四尺十二帖 五帽、

三尺四帖 四帽、

御屏風十二帖 在金銅金物、面竹桐文、白綾、裏立涌雲文織物、赤色、

五尺四帖

四尺八帖

御座十五枚

五枚 京筵、緣龜甲文、白綾、裏白生絹、

十枚 國筵、緣平絹、裏白布、

御表筵一枚 面鶴龜文織物、緣小葵文織物、裏白生絹、

朱漆辛櫃一合 在金銅金物・鏤鎰杓、兩面覆、

御帳立具積臺三脚

御几帳手納長櫃三合、

御屏風置臺二脚 白木辛櫃、

御座積案三脚

右奉送如件、

延慶四年正月十五日主典代玄蕃頭安倍朝臣資重

見畢即返給目六、此事、大治、御覽御調度之後、返、給也、而今日、先返給、尤失也、次覽御屏風四尺一帖、資名持參

之、見了資名取之退出、次覽三尺几帳一本、懸帷、尾張守經躬持參之、同見覽

之後、各可持參女院御方之由、仰資名、大治朝隆記曰、先々渡北面云々、件道狹少、仍出北小門廻大路參西面云々、今院北面廣也、仍

不廻大路、廻御所北面可持參也、次余廻西面方、於中門內上皇有御覽、於此門前上皇可被御覽之間、門前三可正行烈之由、資名二仰了、

先釜屋殿二人、著立烏帽子、著退紅裝束、件裝束年預調進之也、前行、持白杖、次御調度等著退紅裝束釜

殿運之、摠廿六人也、御方、不持笏、大治朝隆、建、次主典

代・廳官等渡了、次御調度等昇立御車宿前、南北行、東爲上、以

朱漆辛櫃一合 兩面覆、納御帳帷一帖、御几帳帷十二帖、

御屏風臺 如臺臺、塗胡粉、覆筵、以布網結之、

各積六帖、

御座臺三脚 塗胡粉、覆筵、以布結之、

御几帳手十二本 納長櫃三合、

已上竝置之次第如此云々、

此間權中納言實衡卿一人著西廊座、自餘公卿遲參之間、自元雖非可參、兼季

卿 御所近邊祇候之間、就、便宜先可參之由仰之、著束帶可參之由、前左府內々仰之、如此之間右大將

公茂卿等參加著廊座、仍且可有御覽儀敷之由、前左府申之者、余諾之、建長、公相、

公基、公親等卿三人候廊座、定嗣・師繼等卿雖遲參不致催、故被行、御覽儀、今日、御點中通顯・兼信等卿遲參、自然相叶建長之例者歟、此間出御寢殿、著御

庇御座、母屋御座外、纏、女房取織物御几丁立御座邊、異方、次長隆朝臣參奏事由、

次內藏頭俊言朝臣出逢取目六、持參西面妻戶下、女房取之、可覽女院、但余見、

妻戶下見物、仍有、便宜之間見之也、此間權中納言兼季卿參、然而不著座、是憚四人之故歟、次藏

人橋以爲敷勅使座、公卿座東弘庇北第一間、敷之也、是大治例也、此間右大將起座、可取勅使祿之故也、

前左府勅使參之後可起座之由、自簾中示之、而猶不得其意起座、頗失也、勅

使參之後尤可起座也、次勅使藏人右少辨資名、不持笏、是大治、參進著圓座、西面、建長等例也、

次右大將公顯卿於公卿座南妻戶下指笏取祿、蘇芳織物唐衣、濃袴、不加、衣、先例也、藏人以爲傳之、大將經弘

庇於勅使座上程授之、資名懸左肩下自弘庇南階、進庭中、自橋木聊西程折、南一丈許去之、拜舞、

此間小雨灑、今朝雨下、而其後、拜舞了退中門方、次主典代以下給祿歟、其儀委

不見及、次殿上五位・六位等持參御調度等、先御帳柱一本、御調度等於中門廊本所、民部大輔成隆持

廳官取上之、置南階間簀子、副北長押東、未練之、次三尺御几丁一本、懸帷、春宮權大進爲宗持參

之置同所、副御簾立之、手方向、次御屏風一帖、尾張守經躬持參之、寄立南階

御簾也、

西柱、今夜不及、次表筵一枚、成隆持參之、於階間〔披カ〕故覽之〔マ〕之後、東第一間御簾中

へ進之、女房中納言典侍前權中納言俊光御女、父母現存、裝束五衣・生袴、豫候簾中也、取之自此間可被入之由、在彦

渡御前置御座西方、正不置定、只白地置之也、御座敷之後、其上可敷之故也、次御座一帖、成隆・爲宗等昇之、

如先於階間御覽之後、自同間進入、中納言典侍・大貳局父母現存、是昇之、經

御前寢殿母屋西第一間御帳間西也、以南爲御枕、敷之、次中納言典侍取御表筵敷御座上、御南

枕、各故敷始之後昇出之、取入同次押桶二口、一口土器、

共成隆持參之、今日殿上人皆以年少之間、押桶令持事難治也、仍成隆二口共持參之、二口各役人可相代事也、此間及暗、仍廳官等南

階東西立明、入階隱櫓役人次第參撤御物等、次入御、御調度等於中門外如元納

之、則入中門經南庭、昇立東中門前、御調度等異方三可被取置之由、在彥申

之、仍歡喜定院南公卿座廊取置之、但此所可指合道場、仍明日侍所司丹後守景長

東帶、奉行之、六位侍中原行秀東帶、源良兼衣冠、藤原助業東帶、中原

盛經衣冠、源康清同、同致範布衣、藤原宗種東帶、中原邦景布衣、

源康任衣冠、同良康同、大江景朝布衣、藤原信賢衣冠、御幸供奉、以後改裝束敷、同知清

布衣、同親國衣冠、源重隆衣冠、等運置之、朱漆辛櫃御帳・御几帳等帷納

之、又屏風納物二脚、已上廳進之、此外委見目六、此間余開歡喜定院東障子見之、

前左府於障子外檢知之、御調度等其數多之間、余不見了歸御所方、前左府召

景長仰御調度等無紛失之樣能々可令守護之由、次於女院殿上可有三夜定、本宮

沙、女院々司成隆奉行、右大將・土御門大納言等著殿上、此外花山院宰相

中將兼信可參也、而遲參、仍覽經程、大治・建長三人也、仍今度又如此、右

大將令四位院司俊言啓事由、院司返出仰聞食之由、此次仰御產三夜日時可勸

申由、次俊言出下侍召勘文、持參之入篋、有懸紙、覽右大將、々々々披見之後置前、

此次仰硯・切燈臺可持參之由、次藏人以爲持參切燈臺立通顯卿座前、次返出

更持參硯、盛加例文、土代等、置通顯卿座前、次通顯卿取上例文、右大將取上例文、執

筆事與奪、通顯卿書定文、密々書儲持懷中、故書之取替也、書了公卿等次第覽之、更傳上、々首人盛加日時勸

文、以俊言朝臣啓御所、此間儀、余於障子上見物之、例文・日時等余披見之、

須付女房可覽女院也、但余見之、依可遲々也、

定文書樣

定

御產間雜事

一、御前物 右近衛大將藤原朝臣

在榎木懸盤六脚、打敷、

行事俊言朝臣

一、御衣

御衣篋二雙 在花足机・覆・綱等、

一合納織物御衣一襲、

一合納綾襦袢二重、

權中納言源朝臣通顯

一合納綾御衣一襲、

一合納絹襦袢二重、

左兵衛督藤原朝臣

行事光〔夏〕藤朝臣

一、饗

上達部廿前 遠衡朝臣

殿上人廿前 同前、

女房衝重六十前

卅前 宗基

冊前 顯永

侍所冊前 重村

廳冊前 景繁

行事長隆朝臣

延慶四年正月十五日

日時勘文書樣

擇申可被始御產雜事日時

今月十五日戊子 時戊

延慶四年正月十五日大膳權大夫賀茂朝臣在彦

見了返給、次俊言朝臣於下侍下廳歟、次公卿起座、次於同殿上有七夜定、女

殿上・此方殿上同所也、七夜此方沙汰也。公卿春宮大夫・西園寺新中納言・大宮中納言・三條中納

言・花山院宰相中將 清雅、等著殿上、大宮中納言一人著輿座、次長隆朝臣奏

事由、今度不勘日時、三夜定時令勘之故也、次師信卿召長隆仰例文・硯等事、

執筆公秀卿、事々同三夜定、仍不及委記、書了次第見下、更傳上後、令藏人

以爲召筥、以長隆朝臣奏之、余披覽之、

其書樣

定

廣義門院御產雜事

一、御前物

榎木懸盤六脚 在打敷、

行事俊言朝臣

一、兒御衣

御衣筥二雙 在花足机、覆・網等、

一合納織物御衣一襲、

一合納綾襦袢二重、

一合納綾御衣一襲、

一合納絹襦袢二重、

行事光經朝臣

一、饗

上達部廿前 基時

殿上人廿前 同、

侍所冊前 雅有

廳冊前 良綱

女房衝重六十前

冊前 胤時

冊前 氏綱

行事長隆朝臣

一、屯食

盛屯食十具

荒屯食十具

行事茂賢朝臣

一、祿

上達部 大掛

殿上人 袈

院司 同、

行事資名

已上大概如此宛定了、廿一日發遣日也、仍期日まで面々返預本人也、自今夕始五壇法、道場殿上五箇間也、五壇道場先例大略殿上也、此殿上南檐ニ令差出庇也、番僧座等無其所故也、道場事兼季卿内々令奉行也、東第一間爲中壇、同二間降三世、同三間軍荼利、同四間大威德、同五間金剛夜叉、副北壁南面々懸本尊、委見差圖、阿闍梨并雜具沙汰人如此、

中壇 前太政大臣公卿息、阿闍梨尊教僧正、雜具永福門院御沙汰、

降三世 前右大臣公基公息、阿闍梨雲助僧正、雜具左大將沙汰、

軍荼利 中納言公泰卿息、阿闍梨實海僧正、雜具經親卿沙汰、

大威德 洞院人道相卿息、阿闍梨賢助僧正、雜具俊光卿沙汰、

金剛夜叉 前太政大臣公季公息、阿闍梨實弘法印、雜具實衡卿沙汰、

道場差圖大概如此、尊教僧正注進之、此外別阿闍梨等注進之、仍撰加之也、

(別掲ノ圖一、此ノ位置ニアリ)

當壇伴僧交名

法印權大僧都良雅 神供、

權少僧都禪源 陀羅尼、

權律師 澄俊

賢俊

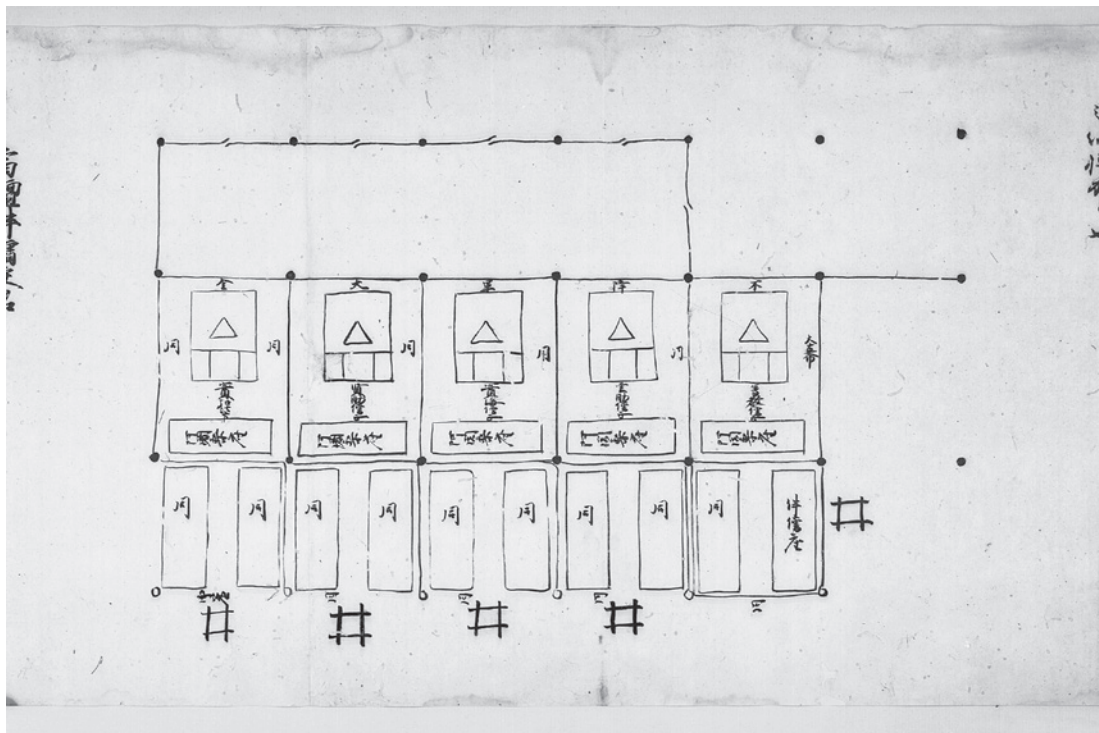
大法師 祐圓 陀羅尼、

覺海 同、

公全 唱禮、

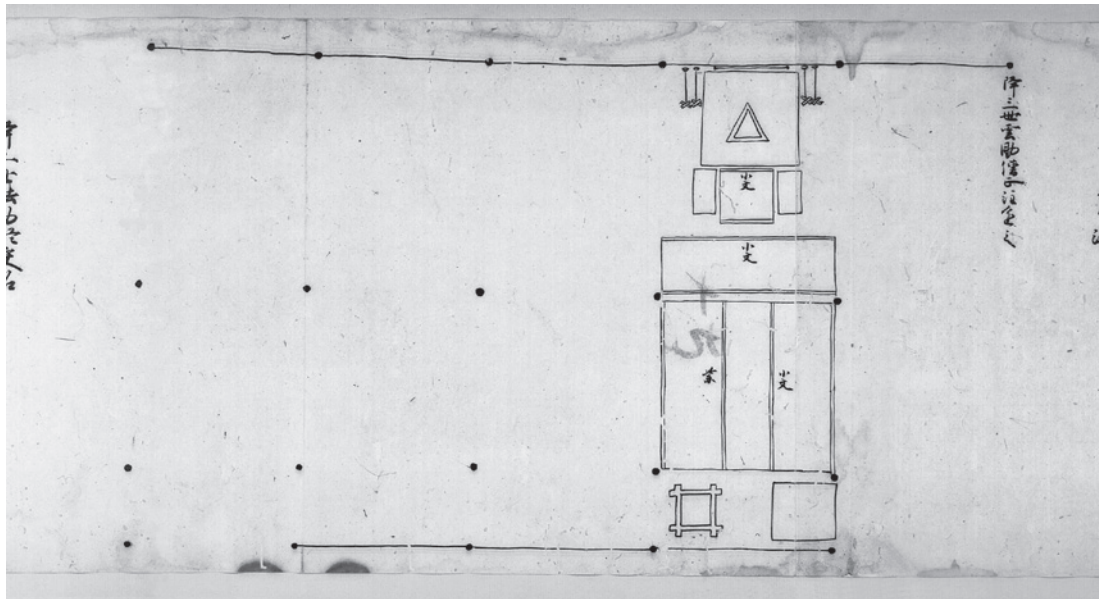
了海 陀羅尼、

(別掲ノ圖二、此ノ位置ニアリ)



(圖一)

(圖二)



降三世法助修交名

權少僧都定仙

親愉神供、
陶羅尼、

權律師 覺源

大法師 兼昭唱禮、
陶羅尼、

禪源 陶羅尼、

契昭 同、

行事

法橋 慶成

雜掌

左大將

(別掲ノ圖三、此ノ位置ニアリ)

軍荼利法伴僧交名

法印權大僧都寬承

法印 淳辨

權少僧都 教緣神供、

大法師 尋守能陶羅尼、

經舜同、

淨尊

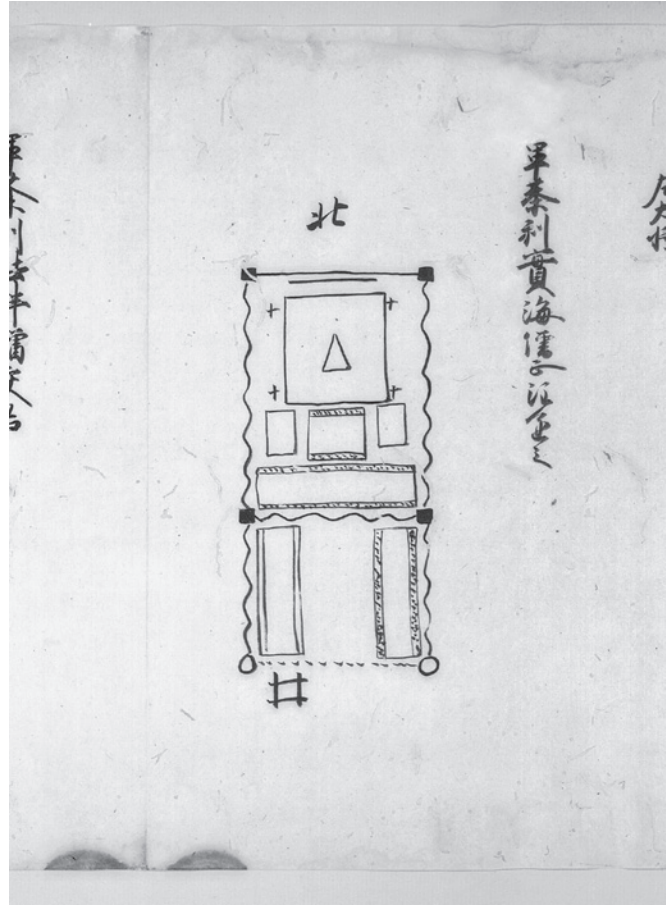
承仕二人

承了

行仙

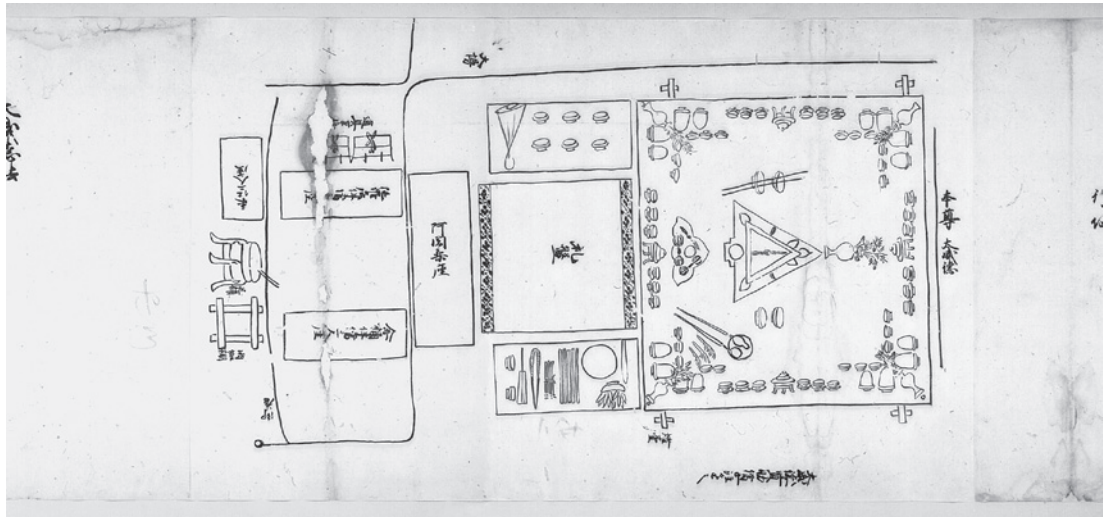
(別掲ノ圖四、此ノ位置ニアリ)

(圖三)



大威德法
伴僧
法印權大僧都定慶
權律師 祐辨
權律師 定淳
能陀羅尼
裔俊 增慶
良兼

(圖四)



承仕

乗心 明行

(別掲ノ圖五、此ノ位置ニアリ)

金剛藥又法

伴僧

法印權大僧都教杲

房祐

權大僧都 良尋

權律師 齋遍神供、

能陀羅尼

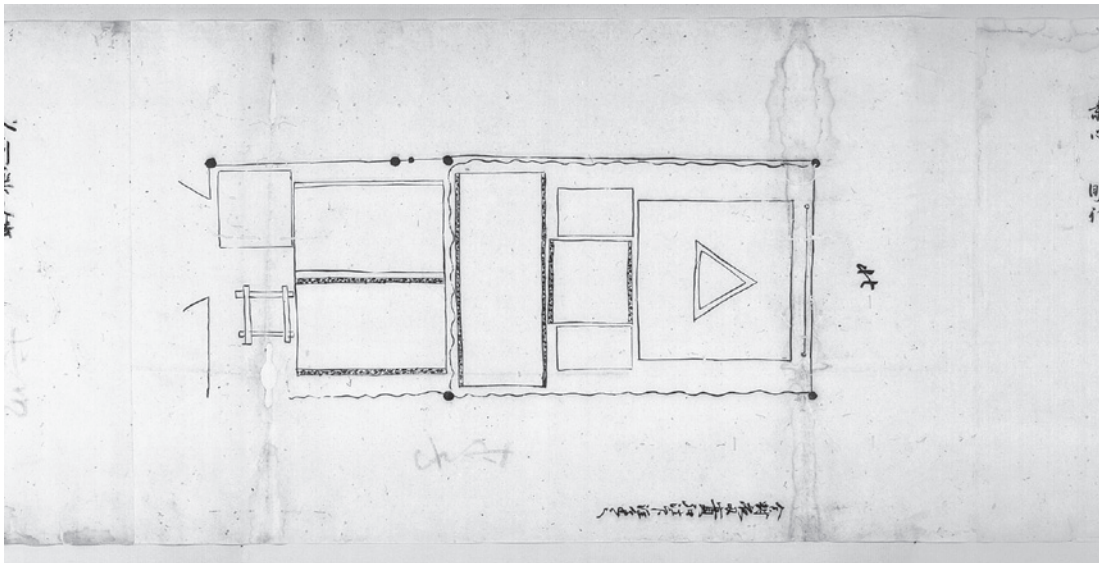
經舜 淨尊

承仕

定林 隨淨

子始許阿闍梨等參、仍始開白、障子上可爲御聽聞所、上皇并余聽聞之、女院同御聽聞、尊教僧正著花田淨衣・白織物横皮香裳也、事了有御加持、御加持所寢殿東面二個間也、仍於彼所有加持也、尊教僧正參之時侍臣等指脂燭、後夜之時後又有御加持、日中無之、自今夜定助僧正所修愛染王法渡御所也、以歡喜定院南公卿座二個間爲道場、又俊禪法印所修藥師護摩同渡御所、以隨身所爲道場也、今日神馬御覽以前有每日御祓、陪膳、(アキマ)役送(アキマ)陰陽師(アキマ)也、

廿日、晴、申剋許永福門院御幸、自今日可爲御所也、自今度以北面爲常御所也、



(圖五)

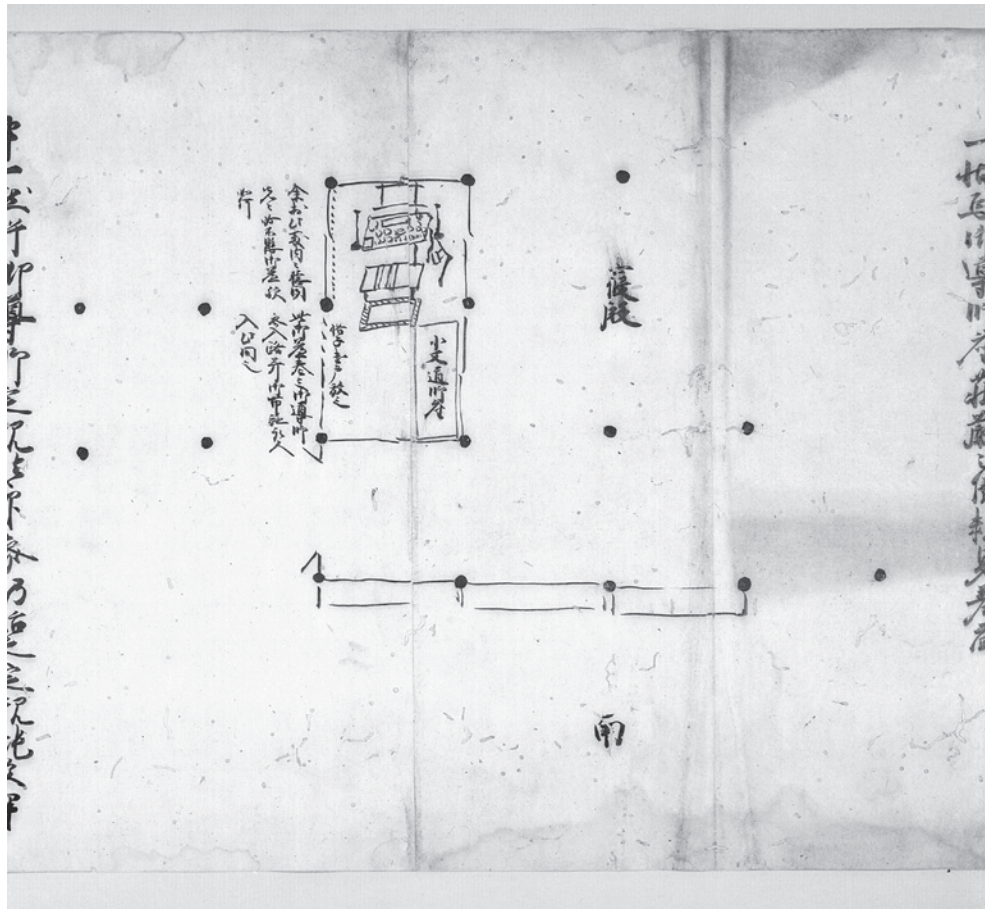
●第三卷

〔外題〕廣義門院御產御記 延慶四年正月(下) 一名後伏見院宸記 三

廿一日、晴、入夜雨灑、今日放光佛供養於寢殿西面二間、日比御加持所也、早日奉仕堂莊嚴、佛具并机等自北山渡之、西園寺預奉仕之、其儀、西格子遣戶撤之懸御簾、弘御簾也、副北障子立佛臺懸放光菩薩尊像一鋪、其前立蒔繪机一脚備香花・佛供等、佛布施同置之、其左右立蒔繪燈臺二本供燈明、佛具机前又立机一脚、聊佛具机よりもヒキ、様也、置觀世音經并壽命經等、各十卷ヲ復一卷也、是十个日分也、香檀紙、黑漆軸、机東方ニ立磬臺、机前敷半帖、纏綱端、四方有縁、東障子南間ニ迫東敷高麗一帖爲御導師座、莊嚴之儀粗見差圖、

(別掲ノ圖六、此ノ位置ニアリ)

申一點許御導師定親法印參、仍始之、定親鈍色甲袈裟、先斯預法師置香呂筥、次導師就禮盤啓白、事了給布施、被物一重、絹裏一、國資朝臣・資教等束帶取之、次預撤布施、次定親退出、抑放光佛、每日御佛一鋪・御經各一卷可被供養也、然而依事煩御佛十个日一度可改之、且乾元如此、且爲近例之間、今度も可爲其儀之由、賴藤申之、雖爲略儀爲近例上ハ勿論、御導師定親法印・覺守法印・忠性阿闍梨等輪轉可勤之、御布施初旬開白・結願兩度可被引之後、々旬結願許可被引之也、御布施所沙汰也、西剋許道昭僧正參、自今夜三時護身可被始之、道昭僧正・實讚僧正・實靜法印三人同自今日祇候、以西面常御所南一間爲御加持所、中障子懸御簾出几帳、中央敷小文一帖爲御驗者、御加持所以南一間也、公卿座也、擧掌燈、御加持之間障子小開之、隨便宜、御驗者等此間自西遣戶參、御加座、以東一間爲博所、副東北二方障子立屏風、南妻戸閉之、日比出几帳、也、持所西面部下之之故也、但道昭僧正下格子以前御加持所自西面間參也、上皇御對面之後、道昭僧正被參御加持所、袈、如尋常、賴藤卿・長隆等引導之、御物付召具之、兼所儲御加持所也、弟子二人召具、侍盛經引導之、自對屋方參也、次有護身、御加持所與常御所之間障子小開之、廣義門院藤原重子女院御坐障子間、上皇同御坐此處、後伏見余又有此處、前左府内々



(圖六)

祇候每事口入、此間黑漆御椽手洗赤土器相具之、護身之間可有、水儲御座邊、御盥之故也、陀羅尼四五反間

女院有盥、土器ヲ御手洗中ニ被入、此間御加持所與常御所之間之障子立之、

次御物付起座、入博所令博也、此間護身止聲、御手洗自御湯殿上方侍盛經取

之、出門前廢水洗御手洗、歸參返進之、事了道昭僧正退出、御物付等退出、

侍引導如先、頃之實淨法印參護身、御物付即參、每事同先、今度御物付、第一子中一人祇候、

時了退出、次實讚僧正參、又同前、次御物付等退出、抑今夜依爲吉日、御驗

者三人故、護身參始也、後々初夜道昭僧正、後夜實淨法印、日中實讚僧正可

參云々、後夜・日中之間何時可參哉之由、問答實讚僧正處、可參日中之由申

之也、又今夜此外後夜・日中重可參否之由、相尋御驗者等之處、以吉日御驗

者三人已參始護身了、今夜於今者別不可有後夜・日中護身之由存之、但別此

外後夜・日中共可參條も可隨勅定之由、各申之、仍仰合前左府之處、然者於

今夜不可有歟之由申之、仍其由仰合了、今夜御物付著二衣・唐衣・紅袴也、

又筵一枚・雙六盤等有御用意博所之由申之、仍令置之也、今夜屬星御祭、御

撫物御鏡一、入弘蓋、女房出之、藏人橋以爲申出之、今日又神馬發遣諸社、賴藤卿伺

毛付支配也、御驗者壇所、道昭僧正念誦堂、實讚僧正泉屋進物所、實靜法印

殿上北面尊教僧正與同宿也、

自今日三个夜屬星御祭、在彥行之、藏人橋以爲申出御撫物、御鏡一、納弘蓋、不裏打裏也、

祭料本所沙汰、女房御代官精進、御祭文章勘解由長官在兼卿、不令清書乍草

也、

維日本國延慶四年歲次辛亥正月甲戌朔廿一日甲午、吉日良辰、仙院齋戒沐浴、

謹遣有司、馳誠青天、至望星宮、奉設請壇、清香花禮奠、

謹請天皇太帝曜魄寶、

謹請北斗七星、魁岡府君、第一貪狼星、字希神子、至室・辟・奎・婁、其數

常直建、

謹請第二巨門星、字貞文字、主胃・昴・異畢・觜、其數常直除・閉、

謹請第三祿存星、字祿存會子、主參・井・鬼・柳、其數常直滿・開、

謹請第四文曲星、字微惠子、主星・張・翼翼・軫、其數常直平・收、

謹請第五廉貞星、字衛不隣子、主角・元元・氏・房、其數常直定・成、

謹請第六武曲星、字大東子、主心・尾・箕・斗、其數常直執・危、

謹請第七破軍星、字持大景子、主牛・女・虛・危、其數常直破、

伏願、星神廻先就座所獻尙饗、光再拜、

南無天皇太帝曜魄寶、

南無貪狼星、字希神子、

南無巨門星、字貞文字、

南無祿存星、字祿存子、會脫

南無文曲星、字微惠子、

南無廉貞星、字衛不隣子、

南無武曲星、字大東子、

南無破軍星、字持大景子、持脫

謹啓、北斗七星者、七政之樞機、萬物之精命也、以神道之智、掌世之事爲、

以自在之威、定人之壽筭、若致欽戴、必施感應、伏惟、初擬后宮之正位、今

儼仙院之微號、卷耳慙詠、雖謝周雅之詞、齊體承恩、忝備燕寢之禮、然間昨

歲呈吉兆之瑞、此春當誕彌之期、安全之謀、不如致敬、懇祈之道、無軼爲善、

是以迎萬斯年之初節、設三个夜之薄奠、百和之供奇香也、添以梅花開窗之句、

五彩之陳寶幣也、交以松雪殘砌之色、願施哀納、立垂答貺、然則玉體無恙、

慣西華瑤姬之方、珠胎共全、伴東萊金母之筭、兩仙洞成壽木之林、前相府增

繁華之榮、外成內平、上治下安、謹啓、

南無天皇帝曜魄寶、

南無貪狼星、字希神子、

南無巨門星、字貞文子、

南無祿存星、字祿存子、

南無文曲星、字微惠子、

南無廉貞星、字衛不隣子、

南無武曲星、字大東子、

南無破軍星、字大景子、

謹重啓、神者人之所仰也、人者神之所恤也、禮有五經、莫重於祭、祭有十倫、

莫最於禮、方今專翹發露、敬奠尊星、廿八宿之先、恒時加護、卅六兩之候、

理世爲榮、天孽不侵、地祇忽休、謹啓、

南無天皇帝曜魄寶、

南無貪狼星、字希神子、

南無巨門星、字貞文子、

南無祿存星、字祿存子、

南無文曲星、字微惠子、

南無廉貞星、字衛不隣子、

南無武曲星、字大東子、

南無破軍星、字大景子、

謹重啓、降臨諸神等、清酌三獻、繁漏五更、禮微座久、不敢稽留、乞廻星駕、

各還天宮、今日以後、退年無彊、門楣耀光彩、國家屬休明、謹啓、

金剛童子供今日同渡御所、可爲法也、道昭僧正於壇所行之、此外自今日可修御

祈、五尊合行護摩俊禪行之、自今日始之、一句之後成供、於橫川、石山如意輪護摩守

惠僧正行之、供料任官功、北野本地供慈順僧正行之、供料可申任官功、

廿二日、辰始許後夜護身令參、實淨法印、御物付、青侍引導之如昨日、雖可

參後夜剋限、御寢最中、且可爲無心、天明之後々夜・日中相續參之條可宜之

由、道昭僧正計申之、仍如此、實淨退出之後、實讚僧正參、依之相續御物付

等不起座候博所也、今日實讚僧正召前對面、申曰、護身之間、御盥了後御椽、

先々御物付ニ給之、而今度内々被出、不審之由申之、仍乾元儀何様哉之由、

余尋之、分明不覺語、可相尋道昭僧正之由申之、仍余相尋僧正、可申之由仰

之、實讚仰僧正、歸參申曰、相尋僧正之處、被申曰、凡御所存も如然候、但

乾元如今度内々被出候と實候近例ニて候へハ、今度も此儀可宜候歟云々、

廿五日、今日諸道場等大概料理之、七佛藥師道場院御方常御所以北東面五个

間、北二間具、東二差出庇、竹柱打、竹柱、アキマ、个間懸御簾爲番僧座、歡喜定院北面

三個間可爲佛眼法道場、北へ一間庇ヲ差出也、導場狹少所々庇、自御簾同懸之、

又金剛童子道場、公卿座三個間外南弘廂一間ヲ具、摠四個間也、東弘廂半許

程ニ立柱懸御簾、其中可爲番衆座也、以上大概如此令沙汰也、委可注道場圖

也、又寢殿北面帳臺撤帷懸御簾、同以東一間北障子撤之懸簾、此間今二人御

寢殿庇邊敷外、副庇北柱敷小文高麗、當日可爲諸壇阿闍梨座之、如此事等臨期初

沙汰之條、可遲々故、大概自兼日可用意也、以上兼季卿令奉行也、此外於委

事等者、可爲當日沙汰也、自今夜前大僧正公什行烏瑟沙摩法、道場歡喜定院

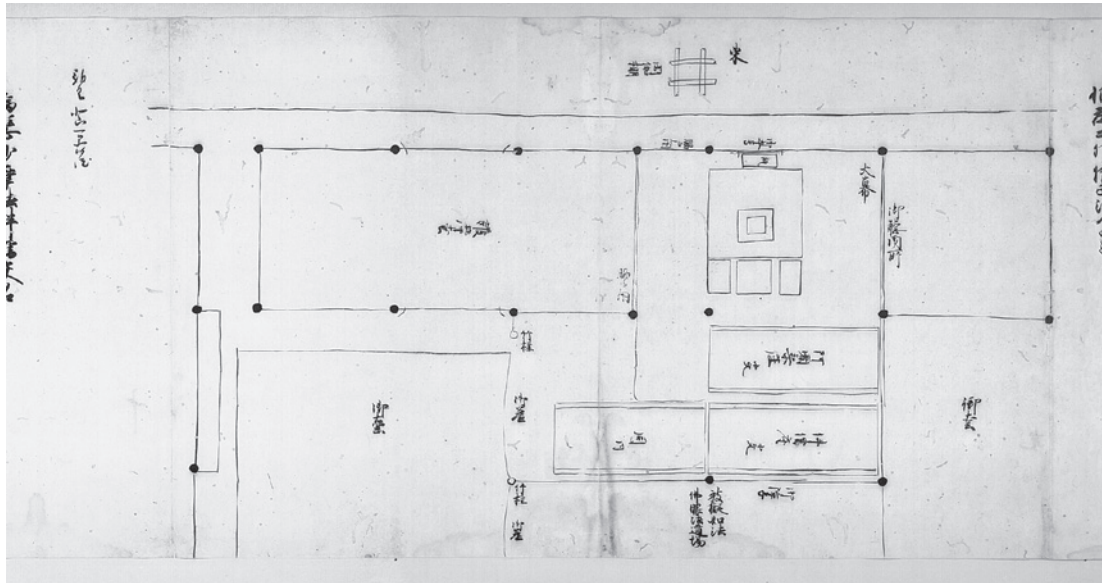
良角二間也、道場指圖公什僧正注進之、

(別掲ノ圖七、此ノ位置ニアリ)

烏瑟沙摩法伴僧交名

法印權大僧都圓親

(圖七)



權大僧都 大夫、快朝、宮内卿、嚴祐
 權少僧都 三位、神供、奉行、玄圓

權律師 兵部卿、實鹽、唱禮、大夫、朝禪
 大法師 已上六口、

已上六口、

子始修法開白、阿闍梨著紅梅淨衣、上皇有御聽聞、(後伏見)兼季・季衡等卿
 內々候此處、便宜無骨之間、女院無御聽聞也、御修法了參寢殿東面御加持所、(廣義門院藤原學子)

兼女房內々
 舉掌燈、切燈
 臺也

廿六日、天陰、今日有千度御祓事、權右中辨長隆令申沙汰也、早旦前左大臣
 以書狀申曰、今日千度御祓事、可參申沙汰之由存之處、寒中肩痛不快、仍如

直衣著用之壇、更以不可叶、又內々如小狩衣參之條、傍人之嘲難遁、此上出
 現可略歟之由存之云々者、(後伏見)余返事曰、今日事內々被參、可有申沙汰之由存之
 處、如然之條、殊歎存候、內々祇候簾中上八、小狩衣更々不可有苦、早可有

御參云々、未剋許余參永福門院方、前左府內々候此處、只今評定之間之由、(廣義門院藤原學子)
 院有仰、小時上皇渡御、々被悉沙汰、整了早可始歟之由、前左府何松容、早

可始之由有仰、上皇渡御寢殿方、余同出寢殿、寢殿除階間外東西簷有日隱打
 覆、高欄外構假板敷、(已上事、渡御此院之時、
 儲之、年預所役歟、)除南階間其東西簷子迫南欄敷紫疊各

二枚、爲陰陽師座、々前白米一折敷、(有紙立、
 散米料、)上紙一帖・大麻百每前置之、
 又高欄外各立八足、立小幣八本・大麻一本等、南階間左右敷圓座各一枚迤北

爲陪膳座、寢殿東西庭昇立長櫃各三合、(納御贖物、釜殿
 等著退紅昇之、)廳召使各兩三人監臨之、
 主典代資世束帶、廳官盛尙下袴、候中門行雜事、其外所役、廳官十餘輩束

帶、或衣冠、同候中門邊、寢殿儀粗注差圖、
 刷裝束、

(別掲ノ圖八、此ノ位置ニアリ)

陪膳 頭治部卿藤朝朝臣、左中將資榮朝臣、內藏頭俊・役送 藏人兵部大輔賴定、藏人次官仲言朝臣、左京大夫隆頼朝臣、左中將國資朝臣、左衛門佐資教、勘解由次官

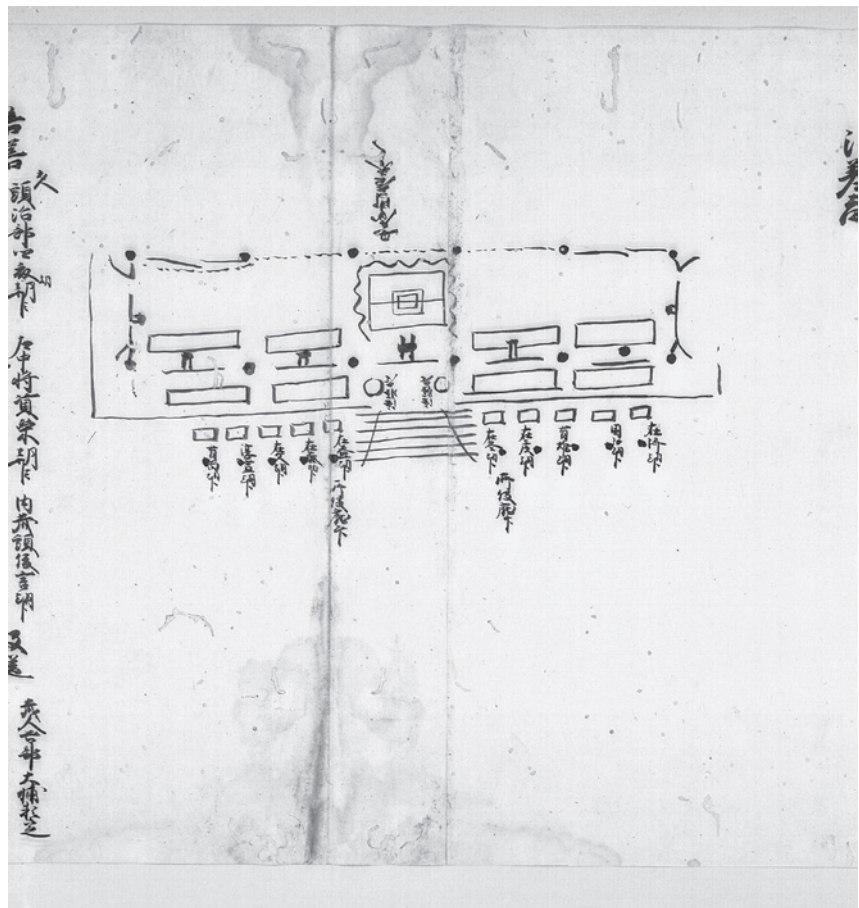
行高、春宮權大進成輔、中將教、陰陽師注右、等皆參之後、女院 今朝先有每日御被云々、余不行、少納言知有、尾張守經躬、洞院入道相國女、依爲内々事也、

見其儀也、出御畫御座、陪膳料女房二人、各五衣・生袴・裳唐衣、居畫御座前、近衛局、西、東、各二親現存、

東西、次藤朝・資榮等朝臣以人形候階間簾下、兩人東西中門切妻ニテ取之歟、余運出相對、

賴定・仲定等同以御贖物祇候、次余氣色于陪膳、次次第二進入簾中、兩女房取之置御前、第一番、兩陪膳所持參之贖物居土高坏置御前、自餘一々ニ御座上ニ置居、兩陪膳著簀子圓座、可著北面也、而南面ニ著之、仍前左大臣自、此間陰陽師十人自中門西廊入同北戶、經公卿座東弘廂并二棟南簀子等、參進寢殿南簀子著座、東西相分夷懸著東之者、渡前簀子著東、聊無便宜、東人兼可儲東方乎、抑又自中門内切妻昇可參進也、而或自堂上參上、猶不可然歟之由、前左府示之、次役送、西仲定、等猶運御贖物十前、左右各五前也、一傳陪膳、々々進簾中、此間前左府仰曰、御贖物皆供了、御祓とく、仍陰陽師同時修祓、詞了自下臈次第二傳上、大麻東西一座、陰陽師 西在盆、東在冬、取集大麻等傳左右陪膳、々々進入簾中、女房供之、供了十前御贖物ニ大麻ヲ一ツ、加置之、次第撤之、陪膳乍居座次第二傳役送、各撤了又供御贖物、今度以後一度ニ五前、取此間廳官左右各五人取床子參上、相對陰陽師候庭上、御祓了こと爾撤古幣立新幣、兼居儲小折敷上、次陰陽師每度祓詞了、取集大麻進之、五本ツ、一度ニ御撫了、西最上折敷ニ加大麻返給、東又如此、役送撤之、次又供御贖物、每度如此、陪膳・役送東西中門相分勤之、陪膳西方俊言・長隆等朝臣、役送賴定・資教・成輔・爲宗等、東方陪膳隆頼・國資、役送仲定・行高・教行・知有等、替々勤之、其次第不能委記、御贖物每度自東西中門取之持參也、數剋之間、余歸常方休息、秉燭程事了云々、

(圖八)



陰陽師祿於中門砌下庭上給之、主典代授之、六丈絹各一疋、本所沙汰也、陰陽師祿、后宮之時諸大夫授之、院中儀主典代定例也

今日儀每事無爲無事、幸甚々々、入夜道昭僧正參初夜護身、此間ハ僧正秉燭以前令參、仍不及指燭、今夜ハ殿上人等可候差燭之由召仰了、而面々退出、長隆不仰其由、爲失了、太奇怪也、凡近日殿上人等、此役頗有難治氣歟、但

別如此沙汰之時、猶面々退出、狼藉奇怪事也、說藤一人祇候、仍可差指燭之由仰之也、

抑御產時分御占、于今無沙汰也、仍今日參陰陽師以十人令占之、御占形長隆取整進之、

御產以何日時可遂御哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、二月節中以己·亥·丑·未日時、可有皇子御降誕乎、

延慶四年正月廿六日陰陽頭賀茂朝臣在益

御產以何日時可遂御哉、遲速如何、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、以己·亥·丑·未日時、御平安可遂御歟、不可有御遲引之象也、

延慶四年正月廿六日陰陽助賀茂朝臣在冬

御平產可爲何日哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、二月節中以己·亥·丑·未日、可有皇子御降誕乎、

延慶四年正月廿六日主計頭賀茂朝臣在藤

御產以何日時可遂御哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、以丑·未·己·亥日時、御平安可遂御歟、可有皇御降誕之象也、

延慶四年正月廿六日大膳權大夫賀茂朝臣在彦

御平產可爲何日哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、

御行年丑、上勝先、天天空、卦遇聯茹、

推之、二月節中丑·未·己·亥日、可有皇子降誕之象也、

延慶四年正月廿六日內匠頭賀茂朝臣在文

御平產可爲何日哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、以丙·丁·壬·癸日、可有皇子降誕乎、

延慶四年正月廿六日散位安倍朝臣有雄

御平產何日哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、二月十一日·十七日·廿三日·廿九日、寅·卯·戌·亥時、可有皇子御誕生乎、

延慶四年正月廿六日主稅頭安倍朝臣淳宣

御平產可爲何日哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、以丙·丁·壬·癸日、可有皇子御降誕歟、若又二月五日·十一日·

十七日御平產期乎、

延慶四年正月廿六日天文博士安倍朝臣國弘

御平產何日哉、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、戊己·丑·未日時、可有皇子御降誕歟、御平產之象、

延慶四年正月廿六日散位安倍有尙

御產以何日時可遂御哉、遲速如何、

占、今日己亥、時加午、奉仰日時、太一臨子爲用、將白虎、中河魁、朱雀、終大衝、

玄武、御行年丑、上勝先、天空、卦遇聯茹、

推之、以丑·未·己·亥日時、可有皇子御降誕歟、強無御遲引之象也、

延慶四年正月廿六日權陰陽博士賀茂朝臣在濟

十人御卜形如此、皆以上吉歟、尤以所爲悅也、此中在冬朝臣一人不載皇子降

誕之由、乾元嚴父在秀朝臣不載皇子降誕之由、仍於御卜形者、雖無子細以彼

例不載之由、內々申之云々、抑又太一臨子之文、寬元御產所今出常磐井入

道相國令卜吉凶、其時有此文、以太子之兩字可爲皇子降誕之地歟之由、故在

盛朝臣申之云々、今有此文、先臣有憑之者歟、幸甚々々、

廿七日、朝陰、臨夕晴、今日上皇御幸八幡宮、後伏見余不參也、辰始御幸、西半還

御、今夜七佛藥師·金剛童子·如法金輪·冥道供等開白也、此外定助僧正所

修之愛染供自夜可爲法、自十七日供二テ渡御所也、又俊禪法印所修之藥師護摩同今夜可爲法也、七佛

藥師法大阿闍梨無品親王覺雲、今夜參內、參二間之後可被參云々、自申剋許

點近邊宿房、實躬卿宿所、整行粧可被參之、午剋許二渡七佛藥師本尊、皆金色藥師像、

七體、此尊像西園寺定增心院二所安置也、此法每度被用此本尊也、奉納長櫃七合也、又如木具同自晝程皆悉渡之、

阿闍梨·承仕等并行事僧檢知受取之、賴藤卿內々布衣、祇候、每事奉行之、

此間前左府參申曰、舞人久正參、今夜七佛藥師法行道路事不審申、先日沙汰

之樣委可仰聞哉、且引導可令見其路之由申之、此行道路頗無便宜之間、今度若可被

答曰、行道路誠無便宜、此上ハ雖可被略此法、舞人ハ樂人無行道之儀之條、頗以無念也者、余

廻愚案、以右大將仰前左府也者、此儀誠可宜歟之由、前左府申之、仍猶可有引導之儀三治定了、

其路委細臨其時可注之、凡舞人ハ樂人ハ廻道場外、諸僧ハ行道路、頗其程遠也、余尤可然之由示之者、前左

府召具久正引導其路、久正申、久忠老耄之上、雖有勞事、今夜相構可扶參之

由申之者、前左府仰曰、此行道之路、頗以程遠也、其上夜中如長押昇降、老

體定以爲難治歟、仍カ以爲代官召進久正之條、有何事哉、且乾元久正參上ハ爲近

例上、可仰其旨之由示之、久正退出了、秉燭程道昭僧正參初夜護身、了改裝

束歸參、先始金剛童子法、此間前左府冠直衣參、內々祇候御聽聞所邊、道場

指圖如此、
(別掲ノ圖九、此ノ位置ニアリ)

此間冥道供始之由、長隆申之、仍御方々有御聽聞、道場歡喜定院、御聽聞所

同東一間、北寄也、阿闍梨前大僧正公什、白淨衣、香裳袈裟、參後始之、道場指圖如此、

(別掲ノ圖十、此ノ位置ニアリ)

冥道供伴僧交名

法印權大僧都大納言、灑水、散供、尊勝陀羅尼、

權大僧都大夫、尊勝陀羅尼、

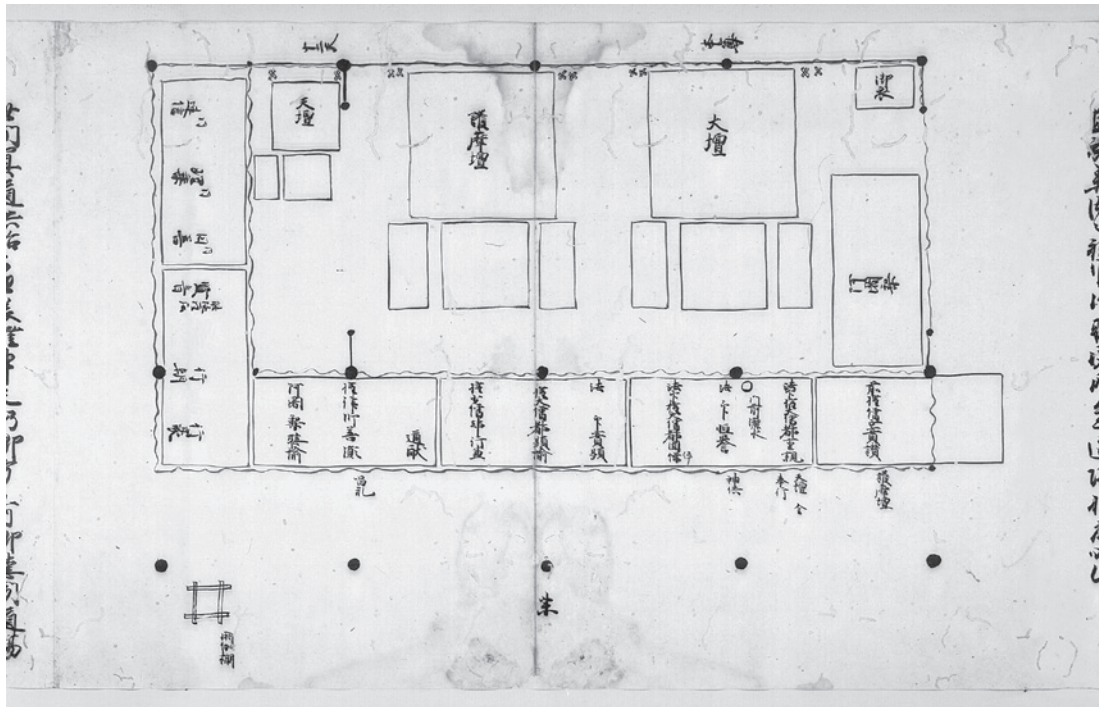
權少僧都宮内卿、嚴祐、諸天真言、

玄圓三位、灑水、散供、諸天真言、

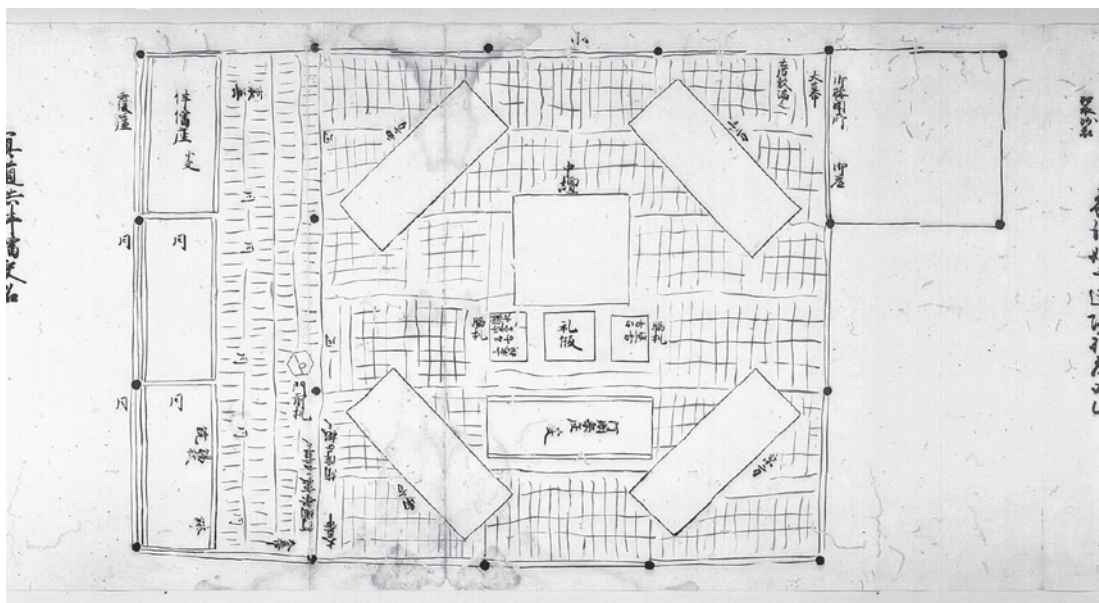
權律師侍從、九條錫杖、神供、兼圓、心經、鏡、

實鑿兵部卿、心經、鉢、

已上六口、



(圖九)



(圖十)

自今夜三个日也、昭訓門院御沙汰、御祭文勘解由長官菅原在兼草之、清書左大將實泰卿、

娑婆世界南瞻部州大日本國仙院敬白、眞言教主、理智不二、清淨法身、摩訶毗盧遮那如來、三世十方一切諸佛、大慈大悲地藏菩薩、地前地上諸大薩埵、聲聞緣覺、諸賢聖衆、梵天帝釋、四大天王、三界天等、日月五星、七曜九執、二十八宿、北斗七星、本命元辰、當年屬星、內官外官、大小星宿、焰魔法王、泰山府君、司命司祿、(錄)五道大神、百部鬼王、本朝大小天神地祇、案上案下三千餘座、年中行疫神等而言、生于相門之累家、備于仙院之封邑、椒腋比禮之初、頻耀繁華之色、芝砌卜居之後、彌開寵樹之榮、於是孕懷示慶、降誕迎期、叶周妃之吉兆、慣堯母之佳瑞、夫仰冥道之慈恩者、保命保生、預佛法之功能者、招福招祥、仍當正月上陽擇吉日良辰、排壇場陳飲食、焚名香列花燭、揚最上垂之法音、(乘之)整眞實教之道儀、於戲明鑒有憑焉、如玉鏡之照萬象、響應無疑矣、似瑤琴之待五音、(待)法水之靈驗、忽及定得生涯之安全、佛界之奇持、是嚴宜增仙庭之長久、然則猗蘭殿上芳淑之譽、(極)新呈具茨洞中英妙之樂、共儼柔弓蓬矢拂魔障於千里、松筭椿齡契遐壽於萬年、祇敬至深、必垂尙饗、

延慶四年正月 日仙院 敬白

抑乾元冥道供御祭文故在嗣卿草之、其時書樣法皇御祭文之由也、共太上法皇卜奉書也、雖爲女院御祭文太上法皇卜奉書、是先例之由申之、今度一向女院御祭文之由ニテ、仙院卜書之、父子所存各別歟、尤以不審也、後日相尋可散不審也、御祭文今朝賴藤卿進之、(高檀紙 書之)余相代女院書御名字、(廣義門院藤原寧子)雖可爲女院御自筆、依爲同事余書之也、以新硯・新筆書之、今日禁齋也、初聊御聽聞後、上皇還御、余・女院同還也、金剛童子御加持之間、女院又入御御聽聞所、座主令參內歟之由、度々以使雖令見、未無其儀云々、已及深更、爰座主參之由、

長隆朝臣申之、仍上皇於中門廊有御見物、余候御共、前左府・右大將等有御共、此間雜人等堂上・堂下宛滿、延曆寺々官以下取松明追前、行粧誠嚴重也、昇中門廊殿上人濟々取指燭前行、經中門廊并公卿座・弘庇・透渡殿・寢殿南實子等、入東渡殿北杉障子、參寢殿東面二間、於此處可有御受戒事也、道場

莊嚴西園寺預自晝參致沙汰也、其儀、寢殿東面二個間副北障子立佛臺奉懸尺迎像、(三尊、座 主用意之)其前立時繪机一脚備香花・佛供、又置香爐、其左右立同燈臺二本供燈明、机左方立腋机一脚置灑水器・塗香器等、机右方立磬臺、机前立

禮盤一脚、南間副東敷高麗小文疊一帖、其上加茵爲御戒師座、西障子北第一間ニ出織物几帳爲女院御聽聞、(所聽)其中敷縹緇二帖、南西北三方立廻屏風也、北障子覆御簾出尋常几帳爲女房等聽聞所、余於此處聽聞、前左府開南障子、(此間共僧綱二人 持參香爐管・座具等、香爐管置腋机、座具置禮盤上也、)殿之、祇候、座主伺前左大臣氣色被起座、即就禮盤被授申戒、事了被歸著本座、

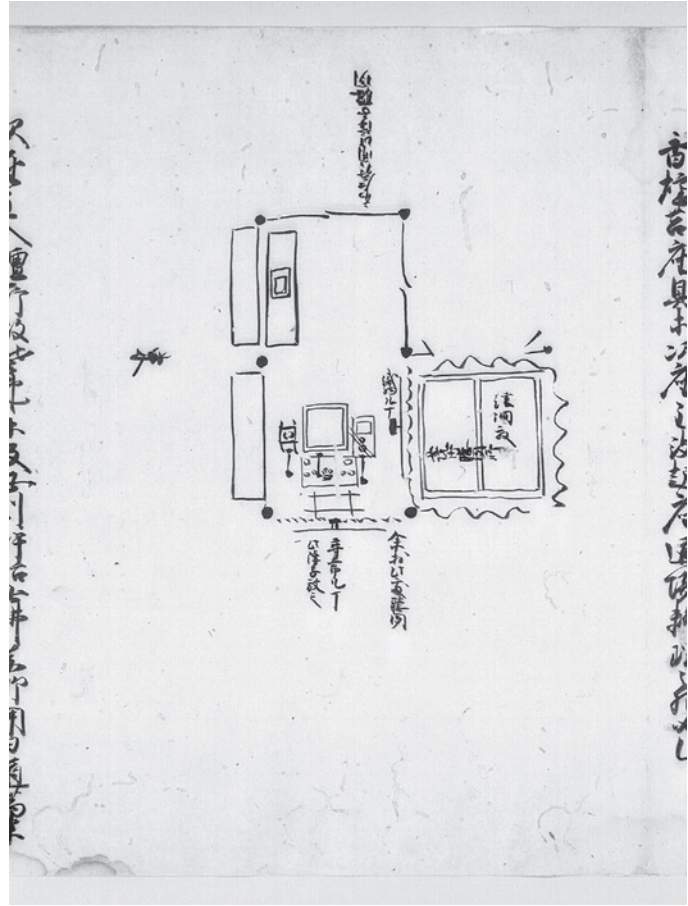
此間自簾中女院御聽、(女院御聽 聞所間也、)出布施、(砂金十兩、裏紅薄樣 有松竹□□ 居夏扇、紫紙、有裏薄繻 祇言畫圖 イツレヒサシ キト文字・書之、勿木彫□是每度例也、)前左大臣進簾下、取之置座主前、了退障子外、次良雲、參撤布施、次本役人撤香爐莒・座具等、次座主被起座、道場料理之樣如此、

(別掲ノ圖十一、)
(此ノ位置ニアリ)
次座主入壇所改裝束等、及丑剋許始七佛藥師開白、道場東面五个間、委見差圖、

(別掲ノ圖十二、)
(此ノ位置ニアリ)
先斯助修等著座、(各著黃 淨衣)次阿闍梨天台座主無品法親王、(覺雲、黃淨衣、白平袈裟)入道場著座、

此間樂人吹萬歲樂、々拍子、諸僧誦四智讚、乍座、次有行道、(三通、廻 宣殿、)誦讚打鏡・鉢、樂人廻堂外、多久正懸臺鼓、(此妻戸中爲御前也、)當東面妻戸前庭上婆娑、次笙、賴秋、次篳篥、安部季俊、次笛、大神景光、(各著襲 裝束)等次第步列、行道路委見差圖、第

(圖十二)



二反不施曲也、行道了阿闍梨昇禮盤、此間樂止、其後儀・行法次第不能注之、但後日開白次第尋取阿闍梨注之也、努々不可有外見之由、座主官申之、

七佛藥師法開白次第

先奉行人并行事僧等參會、

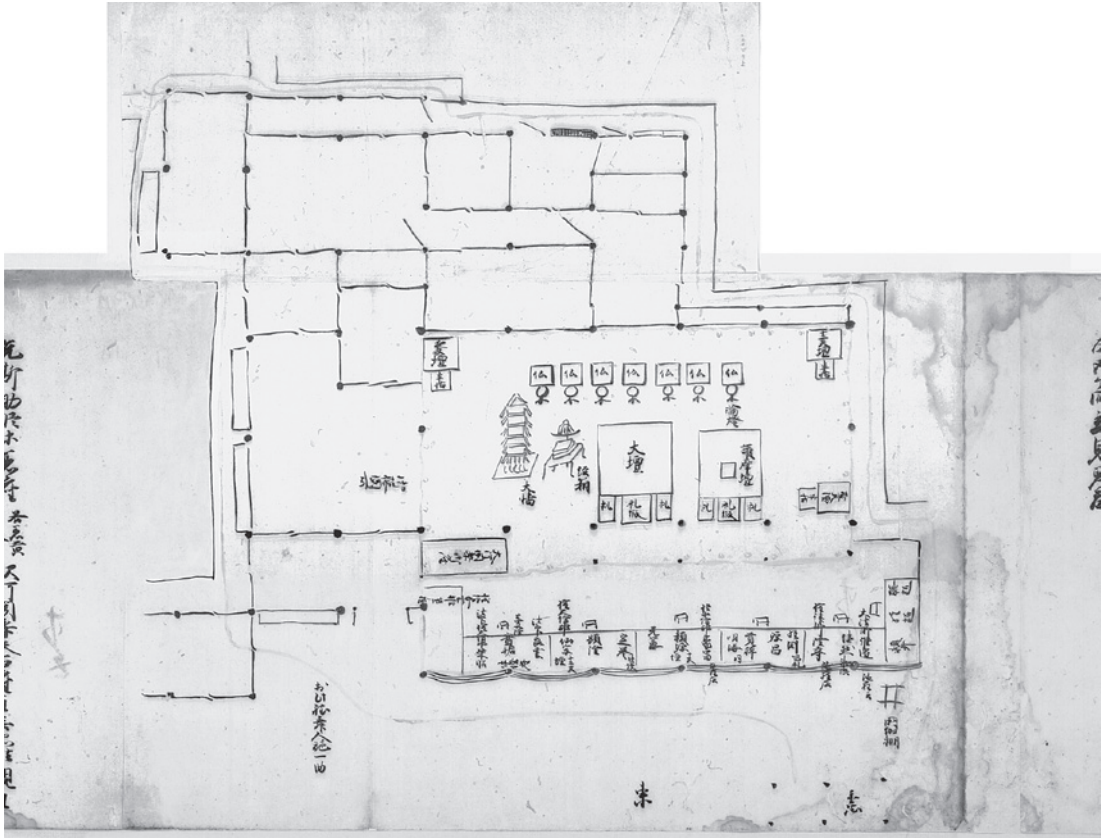
次召儲樂人、

次助修著座、著平袈裟、

次申案內於大阿闍梨、

次阿闍梨上堂著座、著平袈裟、

(圖十三)



居箱役人相從、大壇脇机置之、

次時金打之、此間吹調子

次奏樂、萬歲樂、此時役人進參上正面大幕

此間大阿闍梨・助修列之、本座、

次四智讚一反、鉞一逆、有序、

次又發讚音、行道三逆、下禱為先

次大阿闍梨禮佛著禮版、助修著座、此時止樂、役人立留下幕

次前方便、次摠禮、三反、

次新佛開眼、次表白、

次開題、次發願四弘、

次尺佛尺經、釋次神分祈願等、

次供養文、次唱禮、一佛、

次驚覺、次九方便、

次發願五大願、次助修發音、半念誦、半讀經

次行法、乃至、初鈴、此時奏樂、太平樂

次護摩壇并小壇阿闍梨起座著禮反等、版行法・護摩了各復本座、

次大阿闍梨入三摩地、乃至、

四智讚發音、止樂、

次隨方廻向、了奏樂、千秋樂

次下座禮佛、此時上大幕、後人如前

次行道一逆、大阿闍梨為先

次各著本座、止樂、此時下幕

次後加持、

如法金輪道場東渡殿廊四間、指圖如此、

(別掲ノ圖十三、此ノ位置ニアリ)

如法金輪助修

法印權大僧都良澄 十二天壇、

有助

慈祐 神供、

權律師 高覺

兼圓 唱禮、奉行

阿闍梨 玄眞

慈遍

良範

阿闍梨前大僧正慈順注進之、雜具備中國勤、廣義門院分國、國務定資卿此外北斗法雲雅僧正

任官功、道場佛眼護摩雲助僧正行之、道場護摩堂、雜具入、道中納言念覺沙汰、不動護摩實淨法印行之、

道場、殿上北面東第一間、雜具土御門准后沙汰、千手護摩實讚僧正行之、道場泉對屋、雜具、護摩十樂院

坊被修之、雜掌被渡御衣、使藏人歎、可尋記、七曜供珍幸法印行之、祭料任官功、御撫物御鏡一、入弘蓋、加納御衣脫一、生衣、抑七曜供御衣脫、先例必給裏打裏一卷

二衣、今度も可給之由、珍幸法印懇望、然而先例全無其儀、仍遂不給也、三今日可為御精進之由申之、於御所中被行御祈、申出御衣、申

出輩、座主宮、七佛藥師、道昭僧正金剛童子、實讚法印千手護摩、等也、已上使藏人歎、

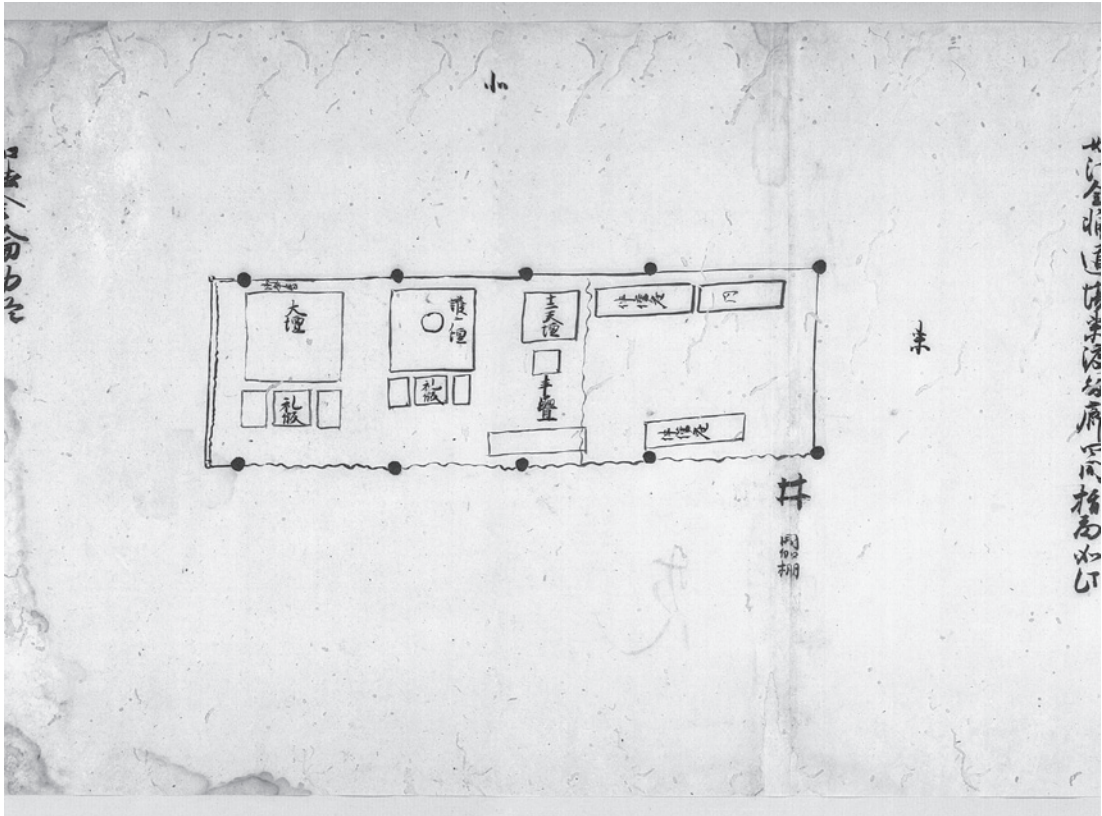
可尋記之、今月分呪咀・泰山府君御祭今日被行之、祭料雅俊、卿沙汰、藏人出御撫物、

抑石山如意輪護摩、守惠僧正自今日同始之、申出御衣、御衣申出之仁、可尋記之、道意法

印於定增心院同自今日行佛眼法、是又申出御衣也、雜具(アキマ)

廿九日、今日放光佛滿十個日、仍結願、給布施、(當カ)其法如□茂賢朝臣・範高等

取之、今日御祓陪膳・役送也佛・經明日可□□(改カ)



● 第四卷

〔外題〕 延慶四年二月（上）
 廣義門院御產御記 一名後伏見院宸記 四

〔舊外題〕 自二月一日
 〔御〕 產御記第四 自廿二日

二月一日、雨下、今日放光佛滿十個日、仍改新佛、觀音經・壽命經等同改之、須本尊每日可為新佛也、而自今日御導師覺守法印、今日ハ無布施、結願之時可有依有事煩、以略儀如此、

今日在兼卿參、先日冥道供御祭文事相尋之處、申曰、女院御分、上皇御分、先例兩樣也、但事理猶女院自御分可然也、仍今度如此奉書由申之、

二日、晴、今日當日祿并神馬料馬等大概撰定之、申剋許於西面中門內覽之、賴藤・實躬・俊光・公秀・覺心等候簀子、面々口入、賴藤召景長、治定所々付札也、先日聊事宜之內被殘置馬等、今日悉又召覽之、本所今日十疋許進之、

當日可發遣所々、大神宮・八幡・賀茂^{上下各一疋}・平野・稻荷・春日・大原野・日吉・吉田・祇園・北野・栗田宮・法成寺總社等也、以上次第撰定付簡、此外御驗者三人、大法三壇、又公什僧正・禪助僧正・尊教僧正・慈順僧正等可給御馬之輩也、仍此輩分同撰定、各付札也、以上廿五疋歟、撰定了余仰賴藤云、當時撰定馬等大概所宛之樣、可如此哉之由、引遣馬等可仰合前左府之由示畢、仍賴藤仰景長、馬等引遣了、

三日、晴、御產御祈事可致沙汰之由、關東狀今夜到來云々、其狀曰、
（藤原家子）
 廣義門院御產御祈事、急速可沙汰進之由、可申入西園寺前左大臣家之狀、依仰執達如件、

延慶四年正月廿三日陸奥守判
 相模守判

此次大宮閉籠并回祿事申之、其狀曰、

日吉社大宮閉籠并回祿事、々書一通遣之、子細所仰合忠國・信義也、仍

執達如件、

延慶四年正月廿四日 陸奧守判

相模守判

右馬權頭殿

越後守殿

日吉社大宮閉籠并回祿事

度々注進狀等披露了、云神輿之入洛、云山徒狼藉、貫首并門主等雖難遁罪科、奉優神威無沙汰之處、誇寬宥之儀忽閉籠社壇、剩奉成灰燼之條、罪科重疊了、而閉籠之輩者、爲別心族之由雖稱之、彼交名人等不離三門跡之上、當宮者貫首警固役所也、專廻靜謐之計策、〔策力〕偏可致嚴密警固之處、依無其儀、既及廻祿之條、貫首・門主難遁罪科間、於社壇造營并神輿造替者、懸三門主、可被終急速功歟之由、可申入西園寺前左大臣家、

今日施藥院使丹波行長衣冠、下紉、召具、兩息尙康、尙忠等、參、借地文ヲ押寢殿北面四方、此處可爲、御產所也、始自良角至乾次第押之、借地當時押庇中柱、御產御座母屋・庇之間、隨其樣

臨期可押改之由申之、

今日上皇被獻御願書於大神宮、此御願書、去月廿七日被染宸筆也、

御願書曰、

佛舍利貳粗〔粒〕

五部大乘經 合二百卷、

右依有夢想子細所奉獻太神宮也、爲每年四季之恒規、點一七今日令淨侶修馱都法、且可奉轉讀此經也、依此起願、摠者一天泰平、萬民安全、別者廣義門院皇子平產、息災安穩、所願不違者、重廻思慮、就密宗之勤行、殊可奉增神明之威光矣、

延慶四年正月廿七日 太上天皇、

抑御願書二通、一通太神宮、一通春日社、去月廿七日被染宸筆、於太神宮者今日已被進之、春日社明日可被獻之云々、

今夜道意法印參佛眼御加持、伴僧六口御加持、〔後伏見〕余對面、今夜殿上人指々燭四日、晴、春日御願書今日被獻之、被遣覺圓法印許也、

御願書曰、

敬白 起願事

- 一、紺紙金字法華經七部可奉書寫供養事
 - 一、可奉鑄御正體事
 - 一、可寄進講經料所事
 - 一、可奉獻十列事
 - 一、可奉獻神馬事
- 右五个條、〔藤原字〕廣義門院御產平安、皇子降誕、息災安穩、所願之旨、無相違者、
- 今明年之間、可令果遂矣、
- 延慶四年正月廿七日太上天皇、

佛眼護摩 雲助僧正修之、道場護摩堂、雜具入道中納言念覺沙汰、

已上於御所中修之、

文殊八字法 實超僧正修之、本坊、雜具賴藤卿沙汰、申下御衣、使藏人以爲、

延命法 良圓僧正修之、於近邊壇所修之云々、雜具爲兼卿沙汰、御衣使同、

北斗法 雲雅僧正修之、近邊壇所、供料任官功、御衣使同、

如意輪法 行快僧正修之、本坊、雜具昭慶門院御沙汰、御衣使藏人以具、

愛染王法 正通法印修之、於成就心院修之、雜具今出川院御沙汰、御衣使以爲、

北斗護摩 忠源僧正、本坊、供料任官功、御衣使同、

藥師護摩 長仙法印修之、本坊、
任官功、御衣使同、

不動護摩 慈範法印、近邊壇所、
雜具本所沙汰、御衣使說網、

已上本坊、或外壇所也、

如法佛眼法道場圖并伴僧交名等如此、

(別掲ノ圖十四、
此ノ位置ニアリ)

如法佛眼法伴僧交名

法印權大僧都圓親

權大僧都 大納言、
大夫、

權少僧都 快朝、
宮内卿、
嚴祐

三位、 七曜壇、
玄圓 奉行

法眼

權律師

大法師

兵部卿、
公玄、
大納言、
實鑿 唱禮、讚頭、
神供、
大貳、
賢什鏡、
大夫、
朝禪鉢、

八口、

陀羅尼 後加持之時加之、

權少僧都 禪源

明海

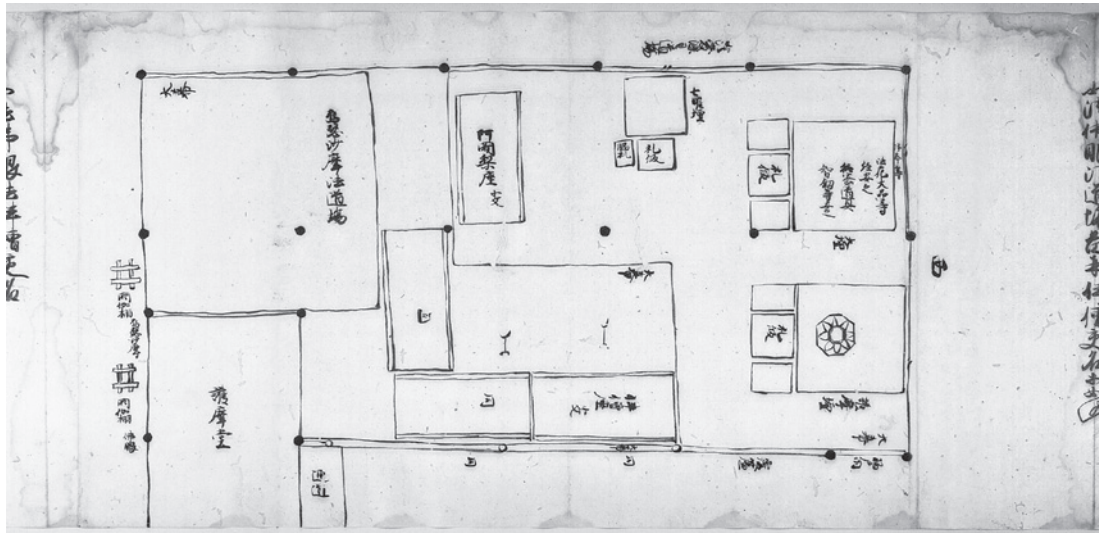
大法師 覺海

維暹

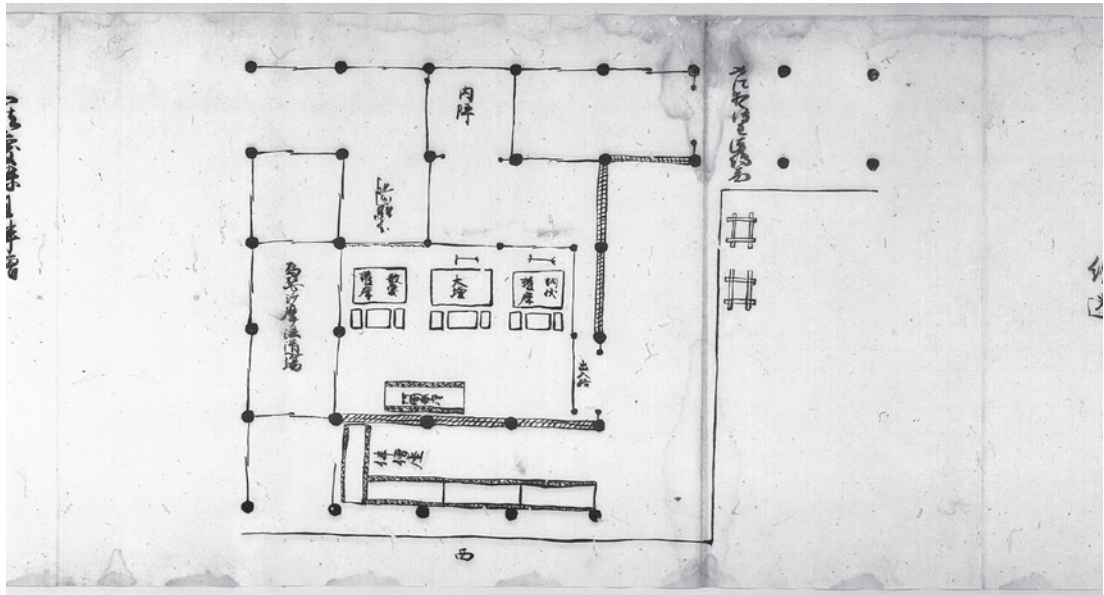
(別掲ノ圖十五、
此ノ位置ニアリ)

如法愛染王伴僧

法印權大僧都禪惠



(圖十四)



- 印遍
- 嚴深
- 顯譽調伏、護摩、
- 成譽
- 權大僧都
- 權少僧都
- 尊譽
- 兼什
- 印玄
- 了禪神供、
- 宣猷
- 大法師

禪助僧正參道場之時、殿上人等差指燭、僧正著紅梅淨衣・香裳袈裟等、御聽聞之間、後加持於道場有之、

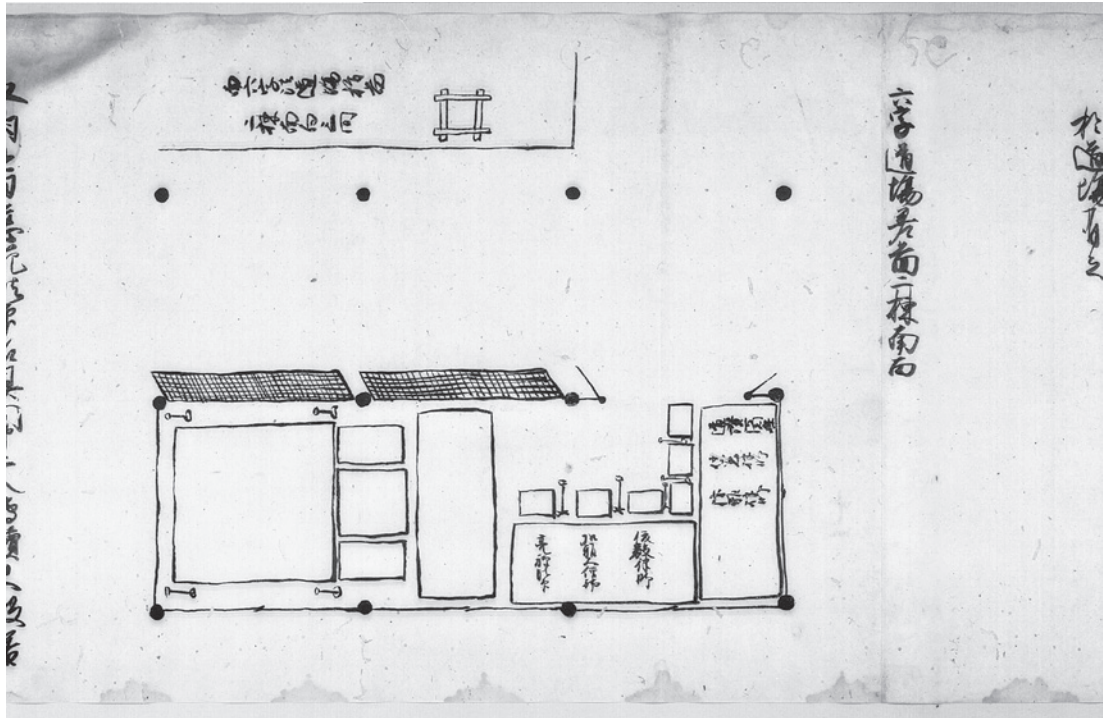
(別掲ノ圖十六、此ノ位置ニアリ)

又自今日慈範法印召具門弟二人、轉讀大般若經、不斷、但夜不轉讀也、書程許也、以寢殿東面二個間為道場、副北障子奉懸本尊、備香花・佛供等如例、

又彌智法印行御本命星供、供料任官功、藏人以爲申出御撫物、御鏡一、入弘蓋、

禪助僧正入道場之時、殿上人等今夜指々燭、御聽聞之間後加持、則於道場有之、自餘大略參御加持所也、六字常御所障子一隔之間、於道場有後加持也、

抑昨日關東之狀趣、以雅俊卿被申座主宮、又被仰尊教僧正、今夜初夜時以前被仰之、座主宮被申曰、此事於是非段者豎閣之、山徒等奉此趣者、不可隨公請、山門阿闍梨等早可退出など、一定令申歟、然者頗可爲違亂、何様ニも(覽之マ)定雖令待存歟、暫待無被仰下之姿者、一定可爲穩便歟、當時御祈懇祈無他念之最中、萬一及事違亂者、就摠別不可然歟、無何様暫不被仰下、御產令馳過之後、於是非又可被定事歟、仍只今當座所存之趣令申



入之云々、尊教僧正所存同前也、仍當時豈無沙汰也、凡八關東就計申之趣、此上何山徒等可及狼藉哉、但近日之法、不辨是非之狼藉凶害之輩、以事次若申出違亂者、尤以可爲違亂、豈無沙汰之條、誠爲一儀歟、
壇所僧坊南妻也、
 及子剋許先始如法愛染王、禪助僧正參之時、殿上人等差指燭、御聽聞之間、後加持於道場有之、事了還御、

抑勝光明院寶珠、今朝顯範卿・資清朝臣各衣冠、參向鳥羽殿、令取出也、而鑑無之間不能開之由、賴藤卿申之、乾元御產時、被出之時有鑑之由、分明見目六、其後嘉元又被出之、其時鑑事不見目六云々、若斯乾元被出之時、鑑未被返納歟、如何、太不審也、所詮此上八令破卻外不可他術乎、
腕アルカ
 臨期凡違亂無極、爰兼季卿申曰、禪助僧正申、何様ニも早可致沙汰、先可給之由申之者、阿闍梨受取寶珠了、

寶珠守護結番輩

- | | | | |
|------|------|-------------------------|----|
| 一番子 | 有時朝臣 | 泰忠朝臣 | 清經 |
| 二番丑 | 俊親朝臣 | 惟成朝臣 | 親賢 |
| 三番寅 | 雅仲朝臣 | 隆頼朝臣 | 行高 |
| 四番卯 | 茂賢朝臣 | 濟氏 <small>尹歟</small> 々々 | 成輔 |
| 五番辰 | 實豐朝臣 | 茂賢朝臣 | 長益 |
| 六番巳 | 資榮々々 | 長冬朝臣 | 公時 |
| 七番午 | 信兼朝臣 | 定有々々 | 家高 |
| 八番未 | 兼高朝臣 | 家顯々々 | 知有 |
| 九番申 | 伊家々々 | 、、 | 教行 |
| 十番酉 | 雅行々々 | 國資々々 | 俊藤 |
| 十一番戌 | 顯香々々 | 有實々々 | 俊繼 |

十二番亥 資清々々 範高々々 資教

已上、賴藤卿相計結番之、

六日、今日公什僧正進烏瑟沙摩香水、大ナル花瓶ニ納之、以檀紙裏口納折櫃、
如傳御上ニ可被賤事、灑敷、

七日、晴、今日准胝阿闍梨信耀僧都牛玉加持香水入銅器、有同蓋、符三裏檀紙、其上
書銘、其銘曰、易產符、付一二三、不違次第可被聞食之由申之、又印裏檀紙一枚、銘曰、安産印、御氣分之時可奉押御
上納折櫃、御氣分之時可進之、然而臨期ハ物念之間、兼進入之由申之、以長
隆進之也、

八日、今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、今日長絹帷鈍、香堅、道場如去月廿七日、
今日重有御受戒事、未剋許座主宮參、織物横皮、同袈裟、道場如去月廿七日、

同三日五十二喉(二)

大鯰十喉 小鯰七喉

大小鯰廿三喉 大小鯰十二喉

同五日十九喉

鯰四喉 大鯰七喉

鯰三喉 小鯰五喉

同六日十二喉(一カ)

大鯰六喉 小鯰六喉(衍ナラン)

小鯰一喉 鯰三喉

鯰一喉

同六日於尼崎天王寺今宮浦放生、

蛤三億三萬一千五十六(此以下五行、誤アラシ)

雀貝五億七萬五千四百八十八

小鮎二千七十八

江鮎一千百三十五

已上九億九千六百七十七、

此外海老、交雜魚一桶、

九日、今日余奉書寫供養隨求陀羅尼經也、紺紙、金泥、上下各一卷、是偏爲御產平安、皇子

降誕也、此事必非先例、乾元御產之時、故道玄僧正申行此御書寫云々、且就

近例、且依有思處、所書寫供養也、其儀、放光佛供養之次、令覺守爲導師、

日比放光佛道場撒西格子遣戸、是可取布施之人依可爲路也、其北障子懸掩御簾爲聽聞所、日

來所敷疊一帖撤之、但副東障子南間一帖敷之爲導師座、此外無殊裝束也、未

剋許覺守參、放光佛供養之次、奉添供養也、(伏見) 此間前左府寢殿開北障子聽聞、

上皇同有御聽聞、覺守說法殊勝、

冥昭鑒定無疑者歟、供養了自簾中出二衣一領、紅梅唐織物、文梅鶯西園寺新中納言
布衣、取之給覺守、自取之退出、

今夜在彥朝臣持參安胎易生符、先寢殿北面御產所也、四角并可打御寢所御枕之由

申之、余仰在彥曰、此所御寢所可為帳臺內也、而當日可為御驗者候所、然者

只帳臺前可為御寢所分歟、以此分相計可打者、在彥令打東障子南間中央長押、

可為東御枕之由、余仰之、次西面常御所四角并同御寢所御枕等、御枕分南障子東間長押中央打之、始自坤至于巽次第打之

彥束帶、令御所侍令打之也、阿闍梨淨雅僧正、家定卿沙汰、自今夜於本坊始也、仍

被遣御衣、使藏人三善長俊、

十日、泰山府君・呪咀等祭二月分今日被行之、御撫物御單一領、御鏡一、料、呪咀、裏打裏如先々、藏人

藤原說綱申出之、又今日重被行屬星祭、御撫物御鏡一、入弘、蓋不裹之也、同說綱申出之、

在彥朝臣行之、御祭文在兼卿草之、

維日本國延慶四年歲次辛亥二月癸卯朔十日壬子、吉日良辰、仙院ツキマ齋戒沐

浴、謹遣有司、馳誠青天、至望星宮、奉設清壇、香花禮奠、

謹請天皇太帝曜魄寶、

謹請北斗七星、魁岡府君、第一貪狼星、字希神子、主室・辟・奎・婁、其數

常直建、

謹請第二巨門星、字貞文子、主胃・昴・畢・觜、其數常直除・閉、

謹請第三祿存星、字祿存會子、主參・井・鬼・柳、其數常直滿・開、

謹請第四文曲星、字徵惠子、主星・張・翌翼・軫、其數常直平・收、

謹請第五廉貞星、字衛不隣子、主角・无无・氏・房、其數常直定・成、

謹請第六武曲星、字大東子、主心・尾・箕・斗、其數常直執・危、

謹請第七破軍星、字大景子、主牛・女・虛・危、其數常直破、

伏願星神、廻光就座、所獻尙饗、再拜、

南無天皇太帝曜魄寶、

南無貪狼星、字希神子、

南無巨門星、字貞文子、

南無祿存星、字祿存子會脫、

南無文曲星、字徵惠子微、

南無廉貞星、字衛不隣子、

南無武曲星、字大東子、

南無破軍星、字大景子、

謹啓、七曜宿之恩慈、蒙北辰之加被、三个夜之禮奠、凝南膜之懇誠、立垂納

受、宜成願望、伏惟、受茨山之厚惠而、置仙居於地仙之陬、儼茅土之益封而、

准母德於國母之儀、以降貴彩勝自長秋宮之月、榮色富于萬歲洞之花、然間姒

幄表嘉瑞於欽明之兆、堯門侍吉慶於誕彌之期、尊星之照鑒如影之寫只、諸神

之答賜同響之應聲、是以所供者百和之香也、出至心之底、所拜者九漢之光也、

耀寸精之中、祇敬尤深、尙饗定及、然則金芝是茂、久添繁美繁榮之名、瓊萼

新開、必爲比玉比蘭之樂、太上皇傳上清之筭、前左台伴左眞之方、遐治邇安、

世質民厚、謹啓、

南無天皇太帝曜魄寶、

南無貪狼星、字希神子、

南無巨門星、字貞文子、

南無祿存星、字祿存子會脫、

南無文曲星、字徵惠子微、

南無廉貞星、字衛不隣子、

南無武曲星、字大東子、

南無破軍星、字大景子、

伏願星神、廻光就座、所獻尙饗、再拜、

南無破軍星、字大景子、

謹重啓、人之敬神、致無貳之信、神之恤人、施得一之靈、仰願楡碧、哀愍棘丹、拂災孽於未萌、招福祥於方來、西崑獻齡、西桃之粧永媚、南山契壽、南椿之影并悛、事々無事、年々有年、謹啓、

南無天皇太帝曜魄寶、

南無貪狼星、字希神子、

南無巨門星、字貞文子、

南無祿存星、字祿存子、(會)

無無文曲星、字徵惠子、(會)

南無廉貞星、字衛不隣子、

南無武曲星、字大東子、

南無破軍星、字大景子、

謹重啓、降臨諸神等、三酌已酣、五更將曙、禮微座久、不敢稽留、乞廻雲駕、各還星宮、今日以後、恒時擁護、玉體安穩、寶筭延長、謹啓、

抑御祭文ニ被載御諱字事、在彥申曰、於當流不可被載之由存之、其故者、

於御祭文者讀上、是仍被載御諱條、有其憚、於御都狀可被載御名字之由存之、不可奉讀上之故也云々、在秀朝臣流、雖御祭文、猶可被載御名字之由存之之歟之由申之、此事賴藤藤卿所語之也、御祭文今度も無清書、清書有無兩様云々、

入夜淨雅僧正參御加持、伴僧六口、皆著白淨衣、阿闍梨白淨衣・香裳袈裟云々、(後伏見)余不見、傳聞也、

七星如意輪護摩自今日光譽法印於本坊行之、成惠僧正弟子、任官

十一日、晴、今日成惠僧正進六字法結線灰、少程ヲ地薄様ニ裹テ、其上を裹檀

紙一枚、入御湯ヲ可被聞食之由ヲ申、不可奉令知御主爾云々、結線檀紙一枚ニ裹之、御服の御クヒなと爾可被納由申之、各納小折櫃居小折敷、

十二日、飛雪間下、未剋許前左大臣參御所、當日參候僧等事有沙汰、抑禪助僧正當日不可候南庇、於道場可祈念申之由、兼日僧正申之、其故ハ尊教僧正當日可候簾中、仍祇候簾外、其上面公仕座次無骨之間、座別難治由申之、旁無骨之由存之云々、凡尊教旁依爲其仁、今度

殊可候簾中也、禪助又當時可被重之仁歟、誠祇候簾外之條、所申非無其謂歟、道場祇候、又有何事哉之由、日比有其沙汰、而猶可候簾中之由、頗有所存歟、

是又強不可爲難儀、寬元聖増法印其身雖爲凡卑、本所殊祈禱仁也、仍于時被抽敷、候簾中、況禪助祇候簾中條、更不可爲難儀歟、但可候簾中者、寢殿東面二個間、此所座主可被祇候之處也、可爲候所也、與座主番僧相交祇候條、若可爲無骨歟、

然而所詮不存其儀者勿論、彼是之間、宜可有所存之由、以前左府有御返事、今夜雲雅僧正參北斗法御加持也、伴僧六口、各白淨衣、參西面御加持所也、

十四日、入夜道意法印重參御加持也、參西面御加持所也、自今夜長乘僧正修尊星王護摩、於本坊行之、雜具衣笠殿御沙汰、被出御衣、

十五日、今夜淨雅僧正重參御加持、

十六日、天晴、今日御幸六條殿、恒例御月忌也、爲兼卿寄御車、(候歟、)余後御車後、下北面許供奉、御月忌以前先御參御影堂、余同之、(後伏見)暨御所作之間、余祈請皇

子平產之旨、次被始御月忌、公卿爲兼・俊光・經守・爲行・教定等卿著座、御導師忠性、(忠源僧正弟子)說法神妙之由、(伏見)上皇有歎感、御月忌了給布施之後、還御

抑日比廣義門院常御所爲西面、至御產期可爲御所寢殿北面也、而今日且渡御北面、但正北面ニ不御坐、暨同東ノ南面ニ御坐、於寢殿北面御氣分之時可渡御也、此所日比院御方常御所也、其謂ハ、藥殿日比可有西方之

由、有沙汰、且雜具等令渡之也、而常御所、(寢殿)與藥殿其程猶遠、其上又當日御湯殿并御湯殿上等可爲東方、仍藥殿別方ニ放之條、可無便宜之由、行長

申之、又西方ニ御湯殿・御湯殿上等被拵之條、有難儀子細、仍藥殿ヲ可渡東方、就是今日且所渡御也、道昭僧正金剛童子法御加持、日比常御所與道場近々間、御加持只於道場有之、而自今夜參東御加持所、又尊教僧正以下五壇御加持、同參東御加持所也、日比參西面御加持所、猶可參御所近之由、尊教僧正依申也、

十八日、今日成惠僧正又進六字結線如先、

廿日、去比所進烏瑟沙摩香水、日比納物ヲ今日遣公什僧正壇所、又重納香水進之、加散杖也、

今日余對面座宮、（王座）被申曰、只今兼覺法印取進衆徒事書一通、其趣者、先日關東令申趣、于今無被仰下之旨、此事若御產以後可被仰下乎、此事山門失面目上ハ、當時山門之輩從公請之條、不可然、早止御祈等可退出之由云々、此事當時雖穩密之儀、關東事書之趣已山上存知事也、就之今遮出此事書、無左右奏聞之條、不可然、仍先内々尊教僧正・公什僧正等ニ申合此趣、此輩依令申之趣、可奏聞之由示之、

今日放光佛供養三句畢之間、如例給布施、左中將實次朝臣・藏人大輔賴定等取布施、其法如前々、此間導師忠性勤之、自明日又可爲定觀也、

廿二日、今夜淨雅僧正重參御加持、（廣義門院藤原季子）今夕女院聊令痛腹給、若斯氣分歟、強不取立之分也、